



2021年度第2四半期決算の概要

(2021年4月1日～2021年9月30日)

ご説明資料

2021年10月29日



 山陽特殊製鋼株式会社



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

目次

1. 2021FY2Q決算および2021FY業績予想

損益の概要

特殊鋼の需要動向、原燃料価格の推移

2021FY業績予想の修正について

販売価格の見直しについて

2021FY中間配当および配当予想の修正について

2. 2050年カーボンニュートラル（CN）実現に向けた取り組み

3. 当社研究・開発のご紹介

4. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因（2020FY上期→2021FY上期、2021FY1Q→2021FY2Q）

セグメント別損益、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、業績推移(年度)

経常利益の変化要因

（2021FY前回予想→2021FY今回予想、2021FY上期→2021FY下期今回予想）

Ovako業績、MSSS業績

設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

5. トピックス

6. 参考資料

Ovakoの決算期変更について

主要市場動向、軸受在庫循環図、損益の詳細

1. 2021FY2Q決算 および 2021FY業績予想

損益の概要 (対2020FY上期)

1. 2021FY上期業績概要

連結経常利益105億円(前年同期比+144億円) … 半期では過去最高益

- ・鉄スクラップ価格上昇の影響、固定費の戻り等はあるが、売上数量の増加、変動費コストダウン、グループ会社の収益改善等により前年同期比増益。

[Ovakoおよびのれん償却費は、2021年度からの決算期変更に伴い、9ヵ月間(2021年1~9月)の数値を記載]

(参考) 2021FY上期の売上数量…Ovakoは2021/1~9月期の売上数量(1~3月は決算期変更影響)、MSSSは2021/1~6月期の売上数量

	2021FY上期(A)		2020FY上期(B)		増減(A)-(B)		
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率	
売上数量(千t)	1,079	151.4/月	627	104.5/月	+452	+47.0/月	
内、当社単独	511	85.2/月	273	45.4/月	+239	+39.8/月	
内、Ovako	1-3月 178 4-9月 333	511	56.8/月	320	53.3/月	+191	+3.5/月
内、MSSS	57	9.5/月	35	5.8/月	+22	+3.7/月	

2. 損益計算書 (対2020FY上期)

(単位:億円、%)

	2021FY上期(A)		2020FY上期(B)		対前年同期(A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,833	100.0	972	100.0	+861	+88.6
営業利益	104	5.7	▲39	-4.0	+143	-
経常利益	105	ROS 5.7	▲40	ROS -4.1	+144	-
内、当社単独	52	6.5	▲17	-4.0	+69	-
内、Ovako(注1)	1-3月 25 4-9月 43	68	7.4	4	0.9	+1,499.3
内、MSSS(注2)	2	2.0	▲8	-18.4	+9	-
内、のれん償却費	1-3月 ▲7 4-9月 ▲13	▲20	-	▲12	-	-8
税後利益(注3)	73	4.0	▲33	-3.4	+106	-
のれん償却費を除く税後利益	93	5.1	▲21	-2.1	+114	-

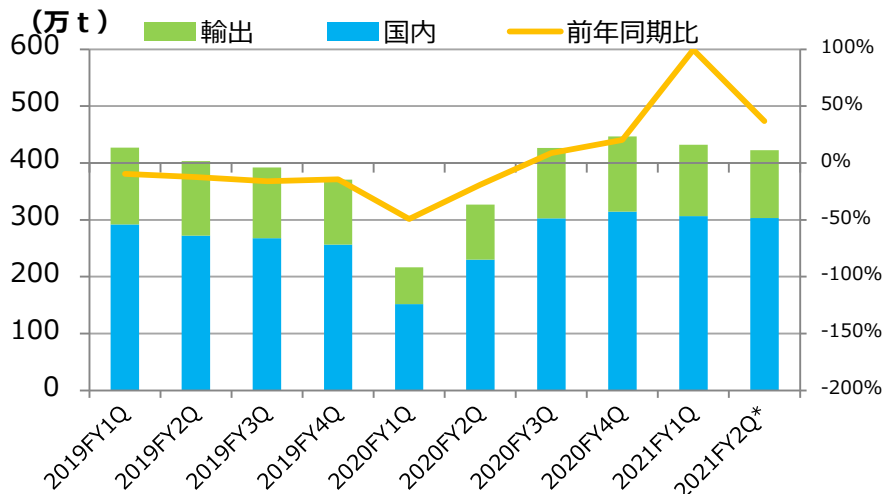
(注1) Ovakoは、2021年1~9月期を連結 (注2) MSSSは、2021年1~6月期を連結 (注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益

特殊鋼の需要動向

特殊鋼需要は主要需要分野で堅調だったが、自動車関連で半導体、部品不足の影響が現出

■ 特殊鋼受注数量

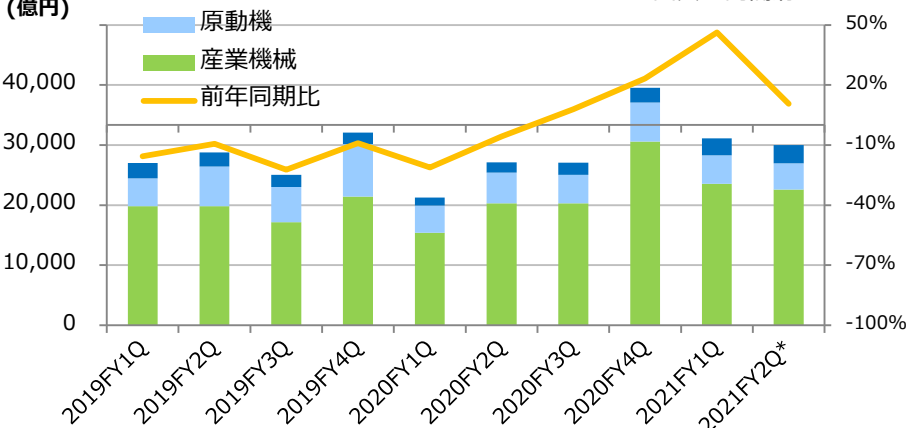
出典：一般社団法人 日本鉄鋼連盟



※ 2021FY2Q値は7.8月値計×1.5により当社算定

■ 産業機械、工作機械、原動機の機種別受注額

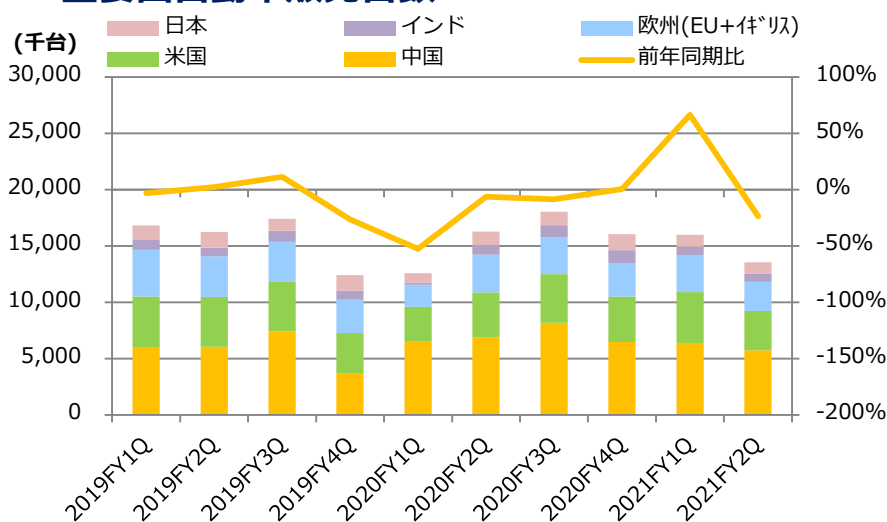
出典：内閣府



※ 2021FY2Q値は7.8月値計×1.5により当社算定

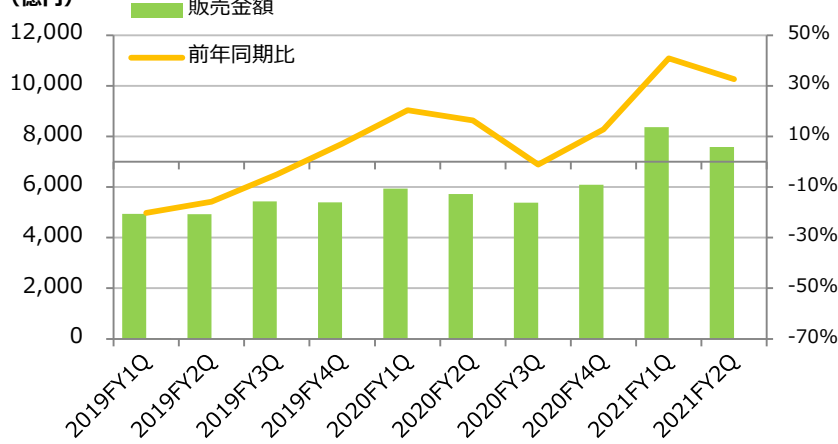
■ 主要国自動車販売台数

出典：マークラインズ、ACEA



■ 半導体製造装置販売金額

出典：一般社団法人日本半導体製造装置協会

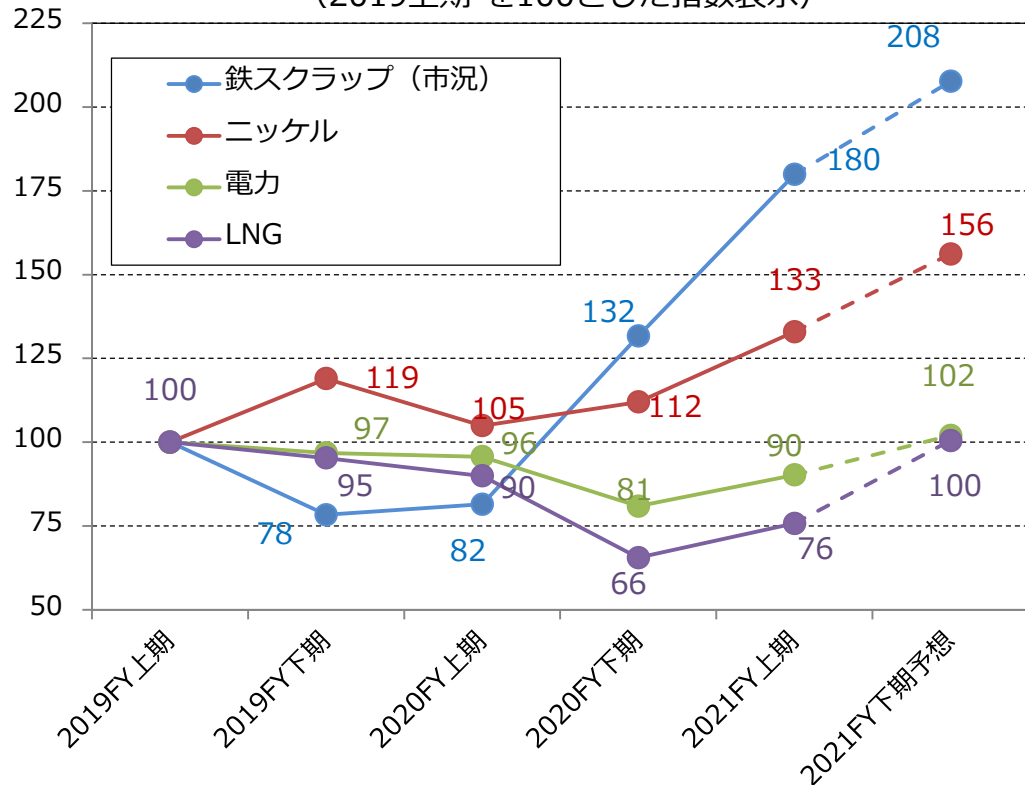


原燃料価格の推移

- 国内粗鋼生産の高位推移や中国の上級スクラップの輸入再開などにより需給が逼迫し、鉄スクラップ価格が高騰。
- 合金鉄価格は、生産の減少や需要の増大により、上昇。
- 原油、天然ガス等の価格が上昇し、エネルギー単価も上昇中。

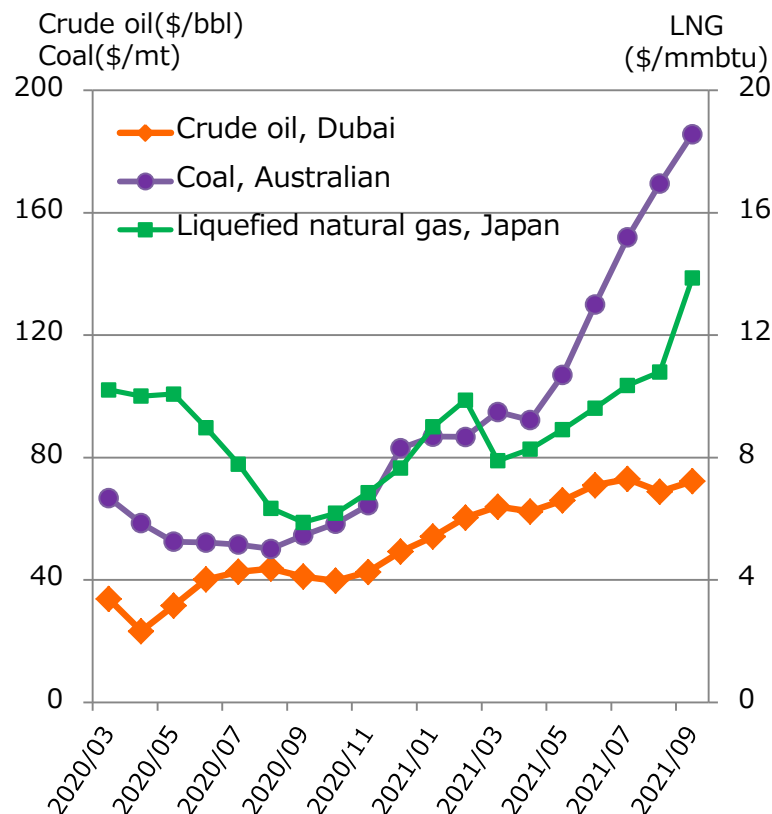
■ 原燃料価格の動向

(2019上期を100とした指数表示)



(注)購入価格ベース

■ 原油、石炭、天然ガス価格の推移



出典：World Bank

2021FY業績予想の修正について(2021/10/29公表)

1. 2021FY見通し

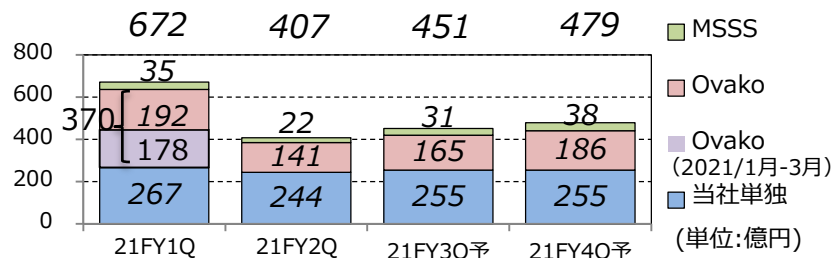
・連結経常利益140億円(前回予想比+35億円)

当社 : ベース値上げを含むマージン改善に取り組み

Ovako : 販売数量の増加や、ベース値上げを含むマージン改善に取り組み

・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る

(参考)2021FY売上数量見通し(千t/Q)



2. 2021FY業績予想

	今回予想(A) 21/10/29			前回予想(B) 21/7/30			増減(A)-(B)		
	上期(実)	下期(予)	通期	上期(予)	下期(予)	通期	上期	下期	通期
売上高	1,833	1,667	3,500	1,820	1,630	3,450	+13	+37	+50
営業利益	104	37	141	87	22	109	+17	+15	+32
経常利益	105	35	140	85	20	105	+20	+15	+35
内、当社単独	52	16	68	44	13	57	+8	+3	+11
内、Ovako(注1)	68	24	93	56	18	74	+12	+6	+19
内、MSSS(注2)	2	3	4	2	1	3	-0	+2	+1
内、のれん償却費(注1)	▲20	▲14	▲34	▲20	▲13	▲33	0	-1	-1
税後利益(注3)	73	18	91	61	10	71	+12	+8	+20
のれん償却費を除く税後利益	93	32	125	81	23	104	+12	+9	+21
売上数量(千t)	1,079	930	2,009	1,087	926	2,013	-8	+4	-4
内、当社単独	511	510	1,021	522	510	1,032	-11	0	-11
内、Ovako	511	351	862	508	340	848	+3	+11	+14
内、MSSS	57	69	126	57	76	132	0	-6	-6

(注1) Ovako損益およびのれん償却費:

決算期を従来の12月から3月へ変更したため2021FY予想は2021年1月~2022年3月の15カ月の数値
(2021FY上期は1月~9月の9カ月、2021FY下期予想は10月~2022年3月の6カ月の数値)

(注2) MSSS損益: 1月~12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

【予想の主要前提(2021年10月以降)】

・鉄スクラップ(購入) 56.0千円/t (姫路地区H2市況)
・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 110円/\$、131円/€

販売価格の見直しについて

■ ベース値上げを含む価格改定により、適正マージンの確保を目指す

使用価値ベースの対価に

国際比価を踏まえ、当社の高纯净度鋼の使用価値を価格に適切に反映

原燃料価格の高騰

鉄スクラップ、合金鉄等の価格が上昇しており、また原油価格の高騰に伴い、電力・LNGも今後大幅上昇すると見られ、自助努力だけでは到底吸収できない状況

2021年9月3日、全ての需要家を対象とした販売価格改定について発表

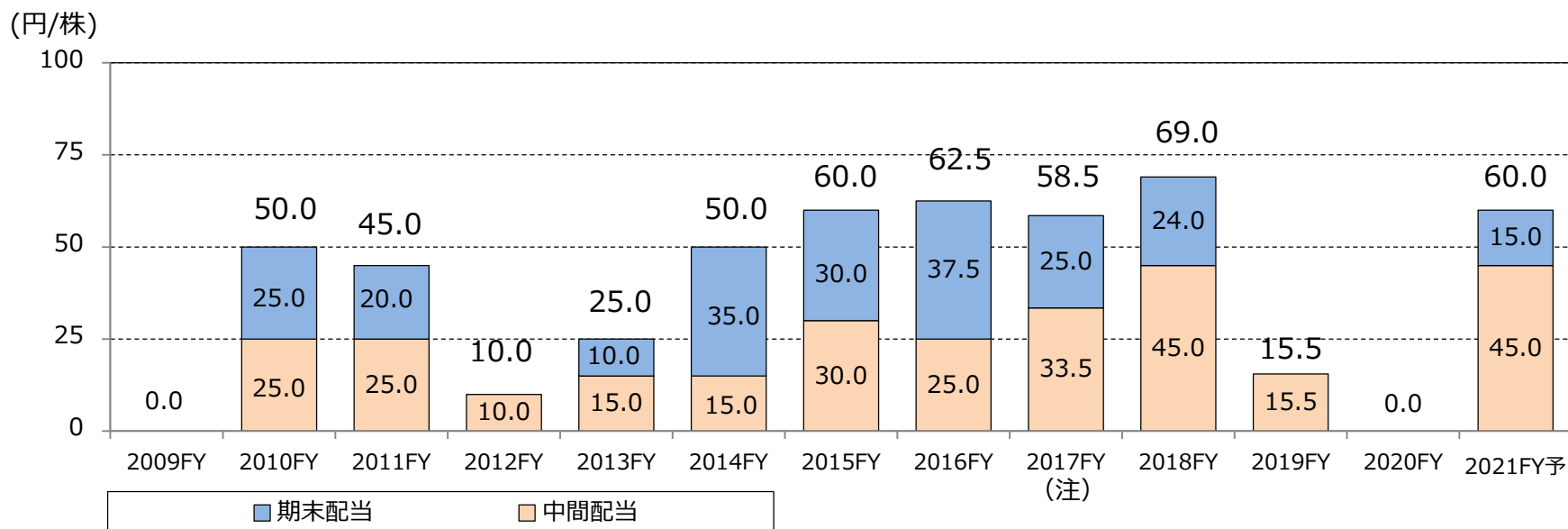
1. 対象製品 : 構造用炭素鋼、構造用合金鋼、軸受鋼
2. 改定内容 : トン当たり + 1.5万円（ベース値上げ含む）
 - ・鉄スクラップサーチャージを導入している需要家には、ベース値上げに加えサーチャージ運用条件についても、個別に申し入れ
3. 実施時期 : 2021年9月契約分、または10月納品分から

■ 上記方針に基づき、需要家と交渉中。

2021FY中間配当および配当予想の修正について(2021/10/29公表)

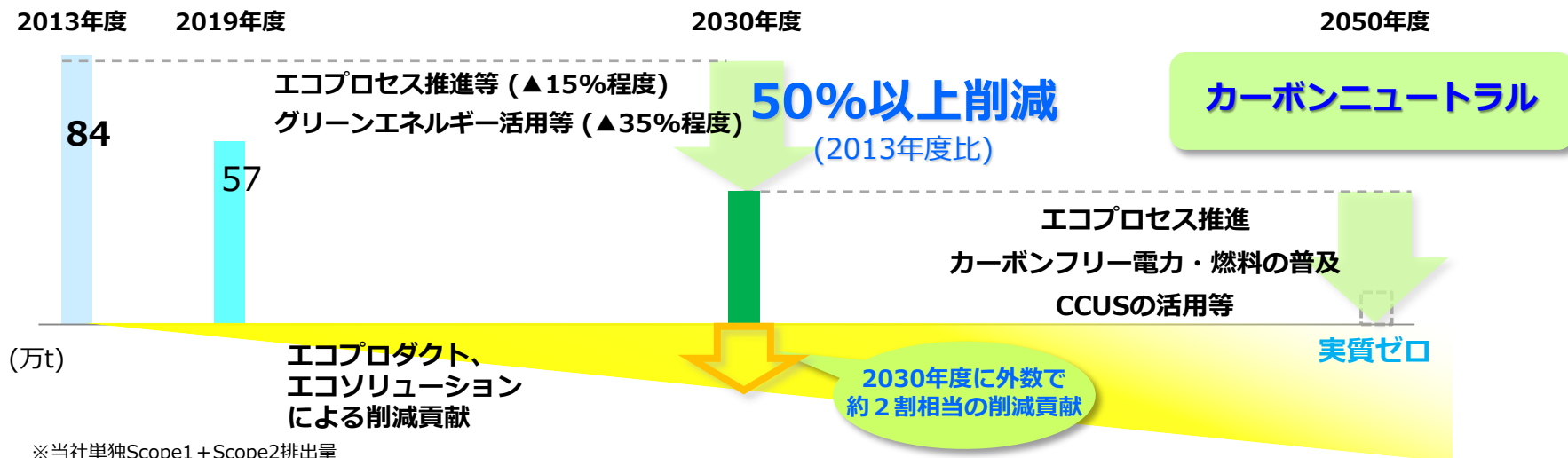
			今回予想 (A) 21/10/29			前回予想 (B) 21/7/30			増減 (A) - (B)		
			中間 (実績)	期末 (予想)	通期	中間	期末	通期	中間	期末	通期
1株当たり純利益	A	円/株	133.8	-	167.0	112.0	-	130.3	+21.8	-	+36.7
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	円/株	170.8	-	229.4	148.7	-	190.9	+22.2	-	+38.5
1株当たり配当金	C	円/株	45.0	15.0	60.0	45.0	10.0	55.0	-	+5.0	+5.0
配当性向	C/B	%	26.3	-	26.2	30.3	-	28.8	-3.9	-	-2.7
	C/A	%	33.6	-	35.9	40.2	-	42.2	-6.6	-	-6.3

(注) 2021FY中間配当の効力発生日：2021年11月30日



2. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

2050年に向けた当社のロードマップ



※当社単独Scope1 + Scope2排出量

※各年度の排出量は、契約電力会社の電力排出係数（温室効果ガス排出量算定用）より算出

エコプロセス



- リジエネバーナーを
採用した省エネ加熱炉

製造現場を中心とした全社の
省エネ対策やエネルギー効率
を高める製造技術開発を推進

グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石
燃料、自然エネルギーの活用

※Ovako事例参照

エコプロダクト



- 長寿命風力発電用
軸受鋼の開発

製品を使用する段階でCO₂排出
削減に貢献する商品や、需要
家のエコプロセスに貢献する
商品の開発・供給を推進

エコソリューション

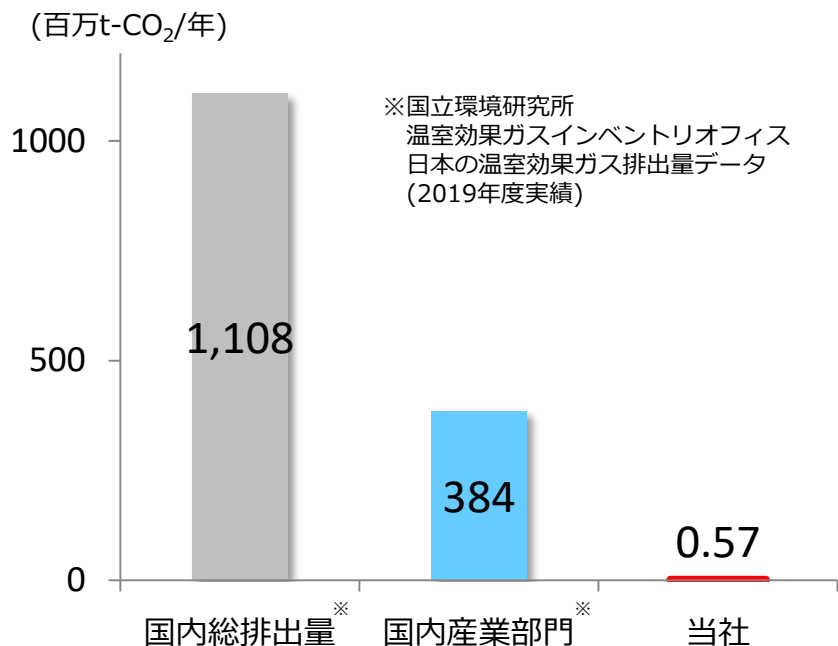


- 海外グループ会社
への技術展開

エネルギー原単位削減に寄与
する省エネや生産性向上技術
をOvako、MSSS等の海外グ
ループ会社に展開

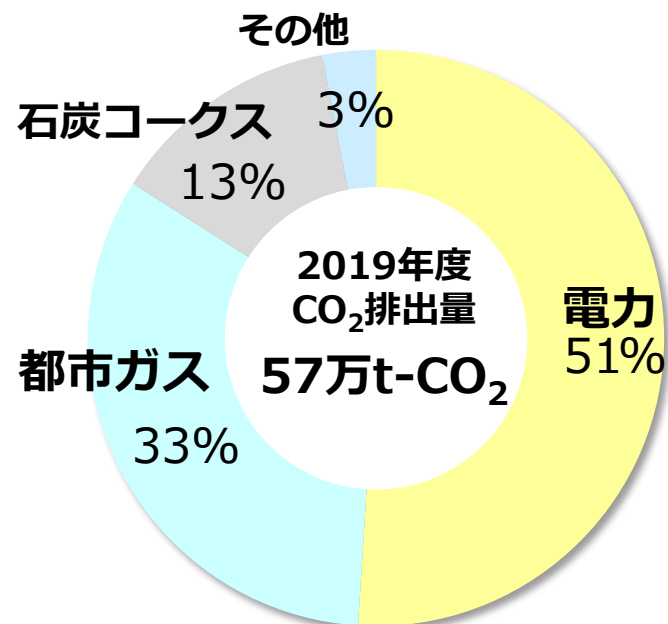
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ (2019年度CO₂排出量)



- 再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



※当社単独(Scope1+2)

- 当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、及びエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼

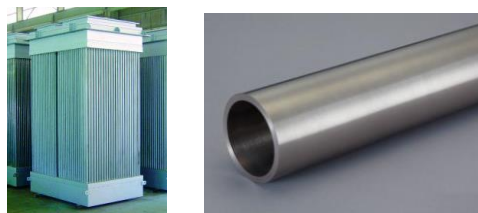


耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

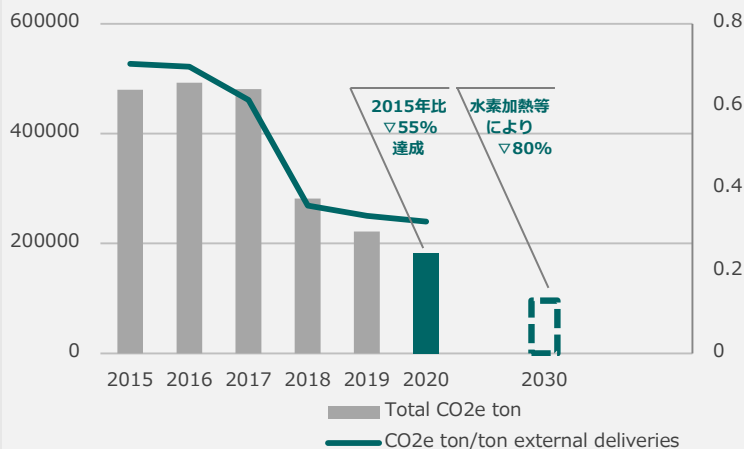


- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

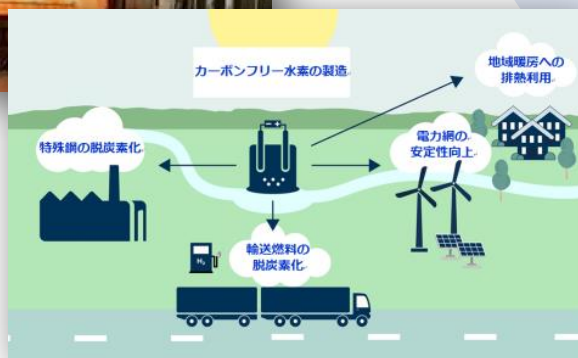
Green house gas emissions from operations

CO₂e/ton Scope 1 and 2 according to GHS Protocoll and ISO14064



- Reduce CO₂ from operations by 80% from 2015 level**
- Continue to evolve Our world-leading CO₂ footprint**
- Enhanced steel recyclability** (Driven by Ovako initiative)
- Increased number of customer** (End-products that use our steel for greater CO₂ savings)

Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2020をもとに作成



特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を
2015年比55%削減

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

カーボンニュートラルに移行
(2021/09/28公表)

2022年1月から自社の製造プロセス
におけるCO₂排出を実質ゼロにする、
カーボンニュートラル体制に移行

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量(Scope1 + Scope2)を相殺
- ✓ 気候変動問題への取り組みや投資を促進するため、鋼材価格への気候サーチャージ制度導入に向けた対話を開始
- ✓ 自社製造プロセスでのCO₂排出削減も引き続き推進

2020年

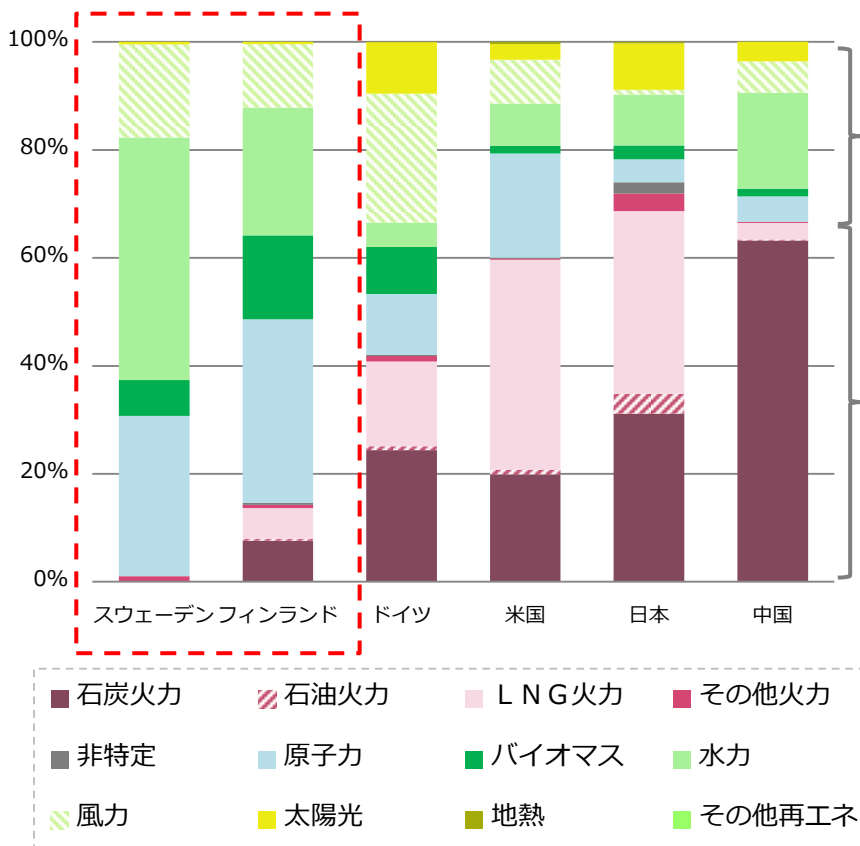
2020年
4月

2021年
6月

2022年
1月

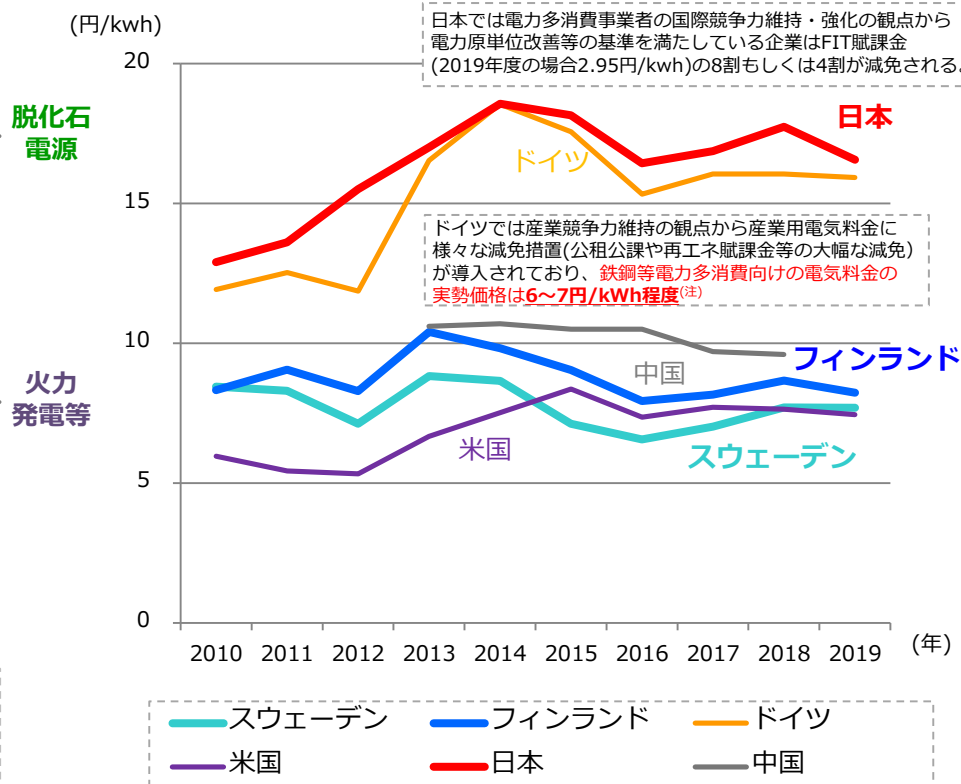
(参考) 各国の電源構成と産業用電力価格

■ 電源構成(2020年)



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

■ 産業用電力価格の推移



日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金(2019年度の場合2.95円/kWh)の8割もしくは4割が减免される。

ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な减免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な减免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は6~7円/kWh程度(注)

※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成
 (注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度

カーボンニュートラル（CN）に向けた取り組み

◆気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言へ賛同を表明 (2021年10月15日)

- TCFD 提言の趣旨およびパリ協定の長期目標達成に取り組む国際社会の状況等も踏まえ、気候変動が当社グループの事業活動に与える影響等に関する情報開示を推進

※ TCFD; Task Force on Climate-related Financial Disclosures

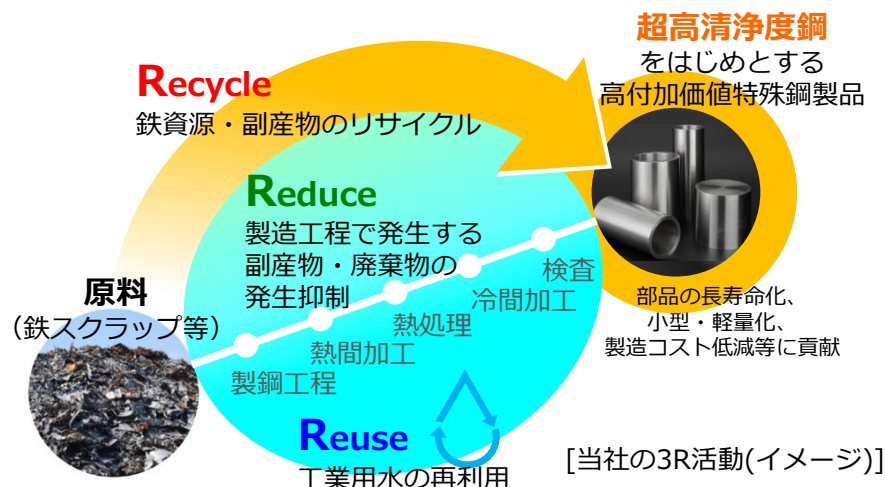
: 主要国の中央銀行や金融規制当局が参加する金融安定理事会(FSB)によって設立されたタスクフォース。

2017年6月に公表した最終報告書において、企業に対して、気候変動に起因するリスクと機会の財務的影響や具体的な対応・戦略を開示することを提言している。

◆資源循環技術・システム表彰で「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞

受賞テーマ『電気炉による鉄スクラップ等鉄屑の高付加価値特殊鋼製品へのリサイクル』

(2021年10月8日)



鉄スクラップを主原料とした高付加価値な特殊鋼製品の開発・製造・提供の取り組みが、カーボンニュートラル社会の実現ならびに資源循環型社会の構築に貢献しうると評価

3. 当社研究・開発のご紹介

研究・開発のご紹介

高清浄度鋼製造技術を軸に、環境課題や顧客要求に対応する新たな価値を創出

メインターゲット：カーボンニュートラル、CASEやDXを意識した製品

プロセス

超高清浄度鋼製造技術

高品質軸受・ギヤ用鋼一貫ライン
風発・高速鉄道用大径鋼材ライン

開発鋼

使用環境別長寿命軸受鋼シリーズ
省合金型高強度ギヤ用鋼シリーズ
用途・要求特性格別工具鋼シリーズ

研究・開発の特長

基盤研究の実践的活用
予測技術の高度化と実践活用
重点分野の動向調査
お客様との連携を徹底
日本製鉄グループ・
シナジーの活用

新たな価値の創出

CN関連

風力発電向け軸受鋼
高速鉄道用軸受鋼
高硬度高靱性鋼
焼ならし省略鋼
3Dプリンティング用金属粉末

CASE関連

eAxle減速機に好適、
低ひずみで静粛性に貢献する
省合金型高強度鋼
浸炭に替わる硬化処理を実現
高硬度高靱性鋼
優れた粒度特性を維持する
高温迅速浸炭用鋼
高強度化する素材に適合する
ブランド工具鋼 等

DX関連

ノイズ抑制シート用磁性粉末



風力発電設備 外観



駆動系部品例



金属粉末による3D造形例
(タイヤ金型)
従来の技術では製造困難な
複雑形状を一体成形

(注) CASE : Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動運転)、
Sharing (シェアリング)、Electric (電気自動車) の頭文字をとった造語。

研究・開発のご紹介：CASEに貢献する軸受・ギヤ用鋼の開発

開発ニーズ

軸受・ギヤの
要求性能

安全・快適性

居住空間確保

バイ・ワイヤ

カーボン ニュートラル

電費向上

車両小型化

モーターへの適合

経済性

部品工程削減

リサイクル性

素材調達性

小型軽量
化設計

潤滑油の
低粘度化

静粛化
対応

希少元素
不使用

加工性
向上

鍛造・熱処理
・被削性

省合金
設計

当社開発鋼の特徴

ベースとなる研究成果の一例

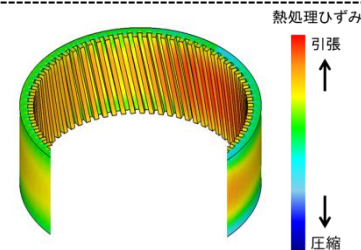
☆省合金型高強度鋼

ECOMAX シリーズ

- ✓低熱処理ひずみ(静粛化)
- ✓低粘度潤滑への適合
- ✓熱処理簡略化に寄与



CASE全般に適合



- 熱処理変形シミュレーションの深化

☆超高清浄度鋼

SNRP、SURP鋼

- ✓優れた耐久性



小型軽量化に寄与



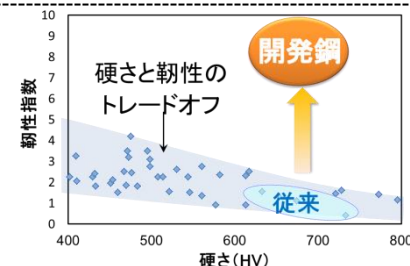
- 超高清浄度鋼精錬技術
- 清浄度評価技術

☆高硬度高靱性鋼

- ✓硬度と靱性の両立



ガス浸炭処理の省略
(処理時間短縮、
CO₂排出量削減)



- 阪大-COJ殿との産学連携研究

(注) バイ・ワイヤ：アクセルやブレーキなどの制御を、従来の機械式制御に換わり、電気信号で制御する方式。

研究・開発のご紹介：エコプロダクトの展開

◆ 部品製造工程の省略・簡略化を実現する「ECOMAX5」を開発

(2021年10月25日)

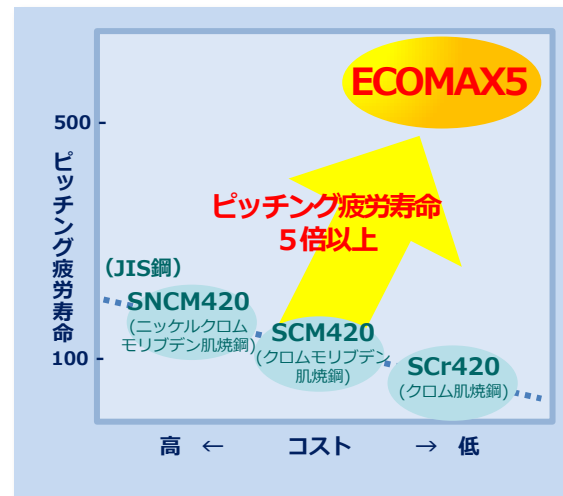
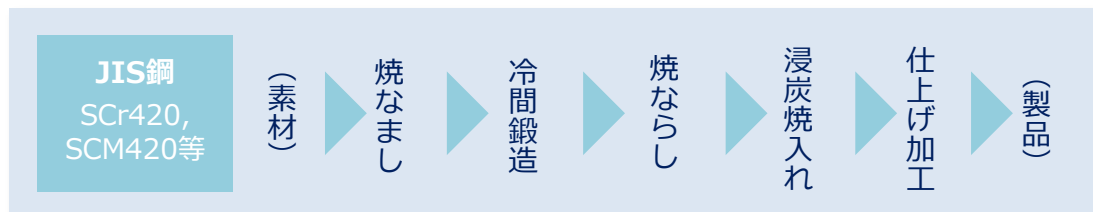
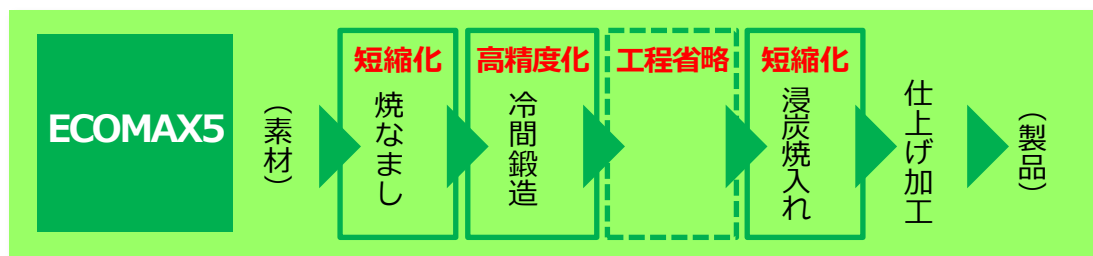
ニッケル・モリブデンフリー高強度肌焼鋼の新ラインナップ
 ～ ギヤ・シャフト等高強度部品製造時のコスト低減とCO₂排出削減に貢献 ～

■ 自動車用ギヤ・シャフト等の小型・軽量化に貢献

- ・ 省希少資源と高強度（疲労寿命）を両立
- ・ ギヤ歯面の剥離損傷（ピッチング）に対して、一般的な肌焼鋼の5倍以上の長寿命を実現

■ 部品工程を簡素化・省略し、CO₂排出量を削減

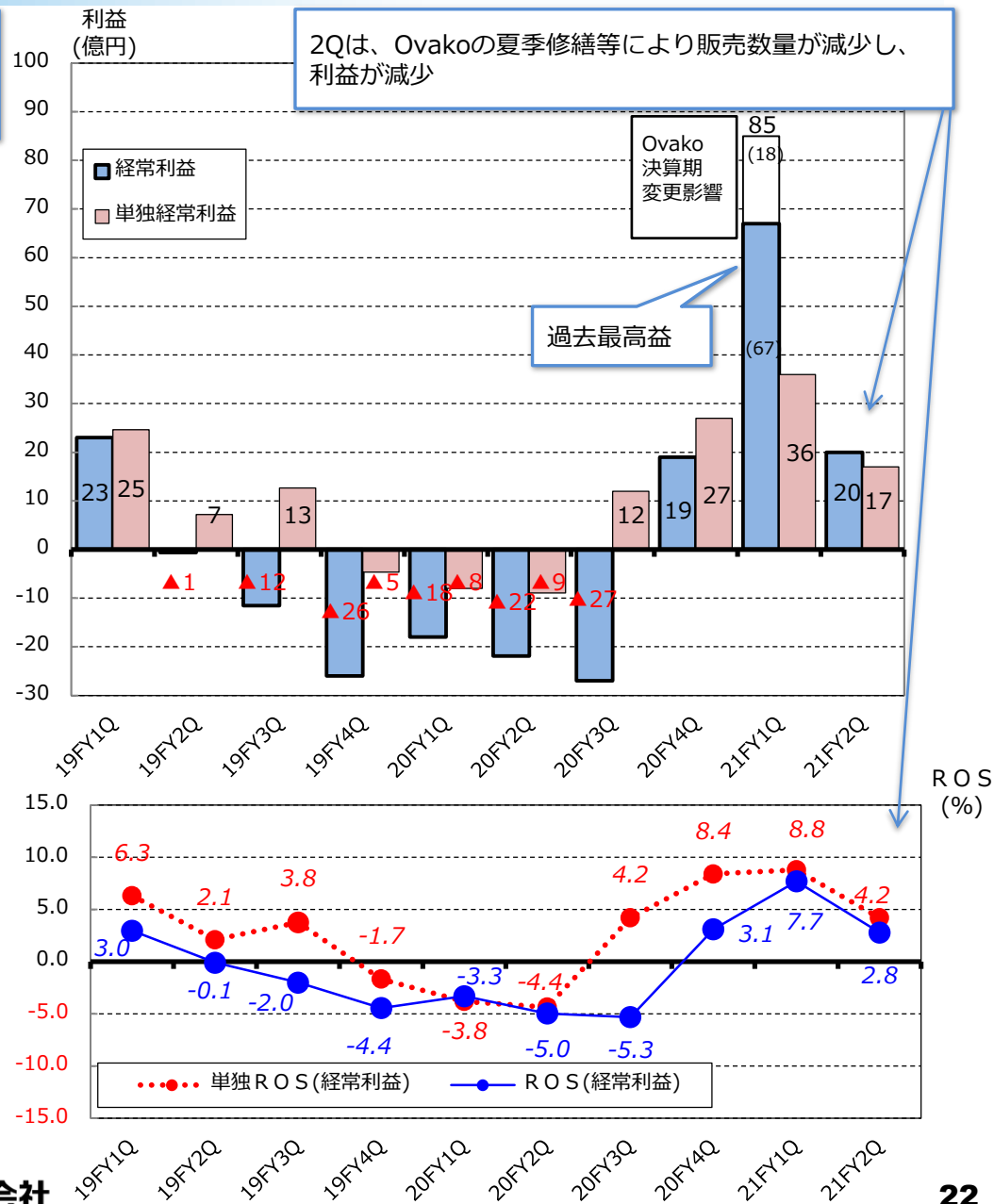
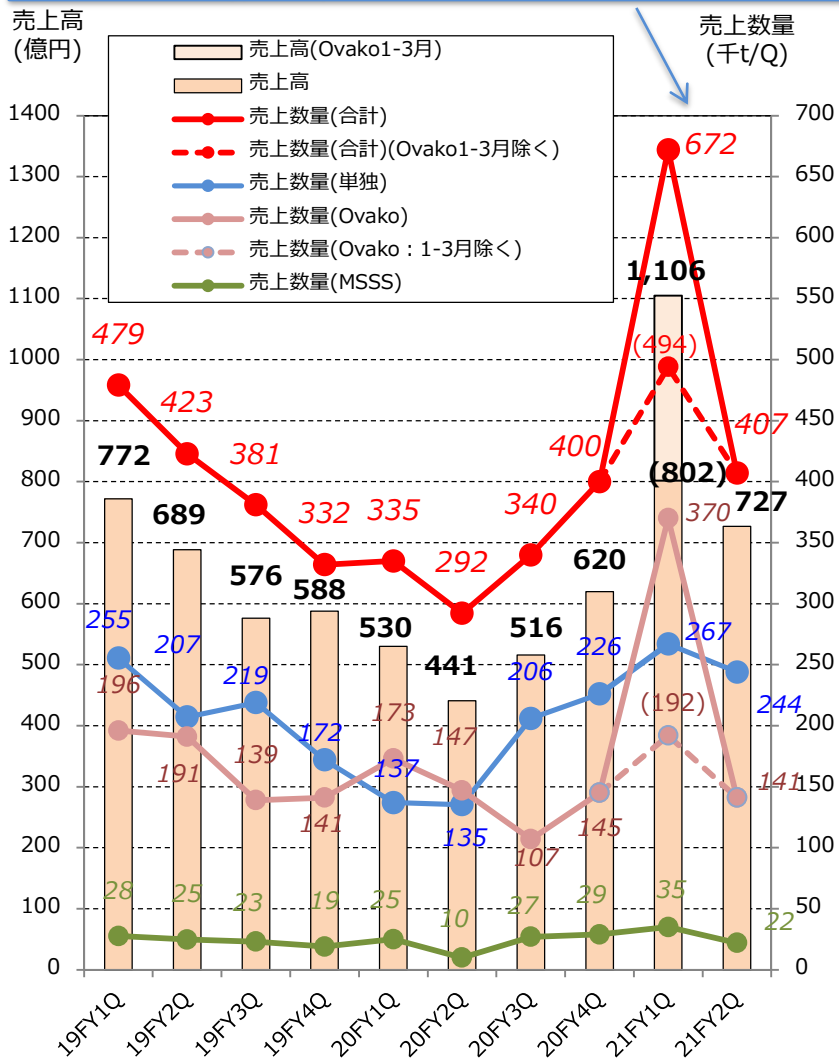
- ・ 焼なまし時間を大幅に短縮。鍛造割れを抑制しニヤネット成形と好相性
- ・ 優れた耐結晶粒粗大化特性により、焼きならし工程の省略と浸炭の高温化による時間短縮が期待される



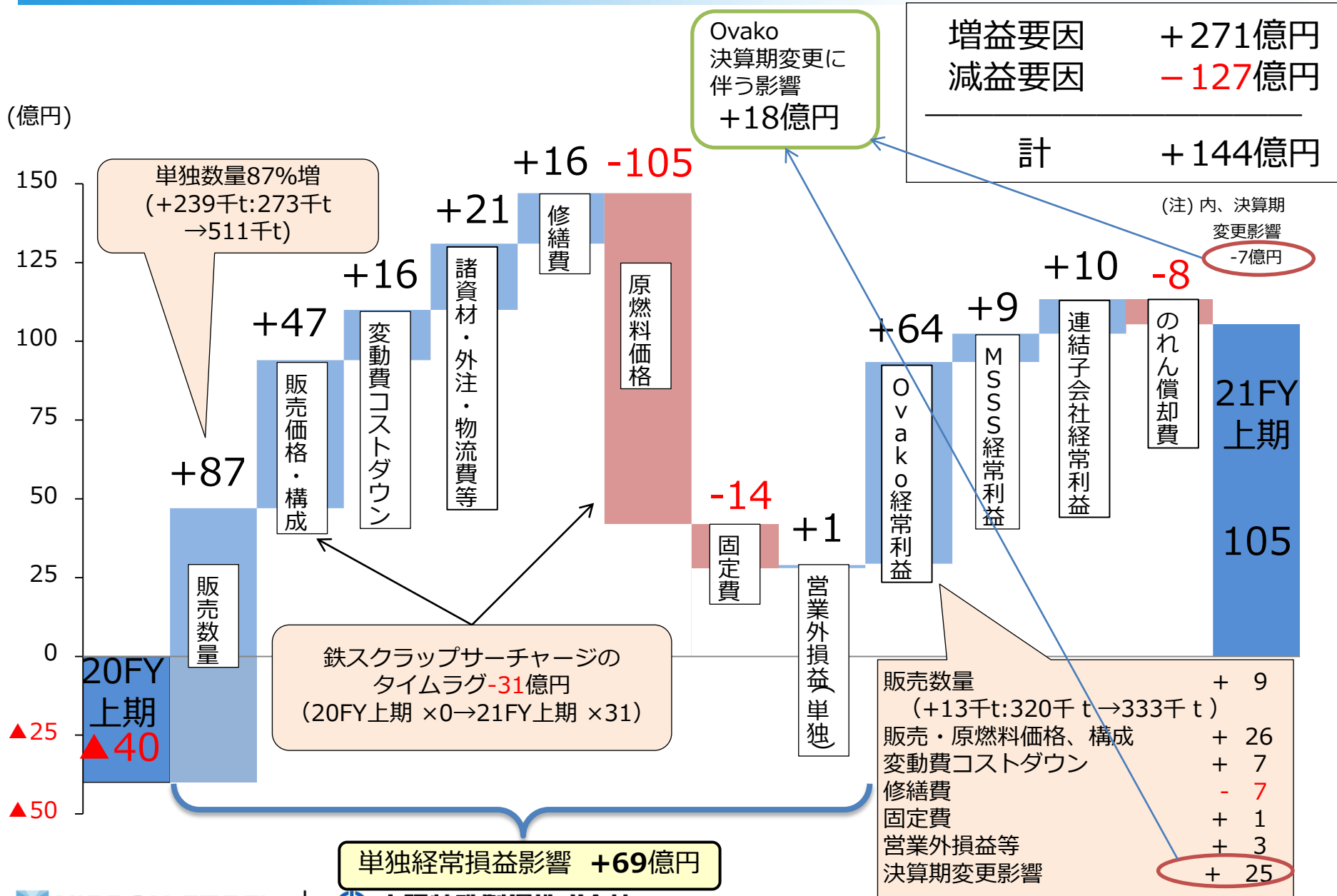
4. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)

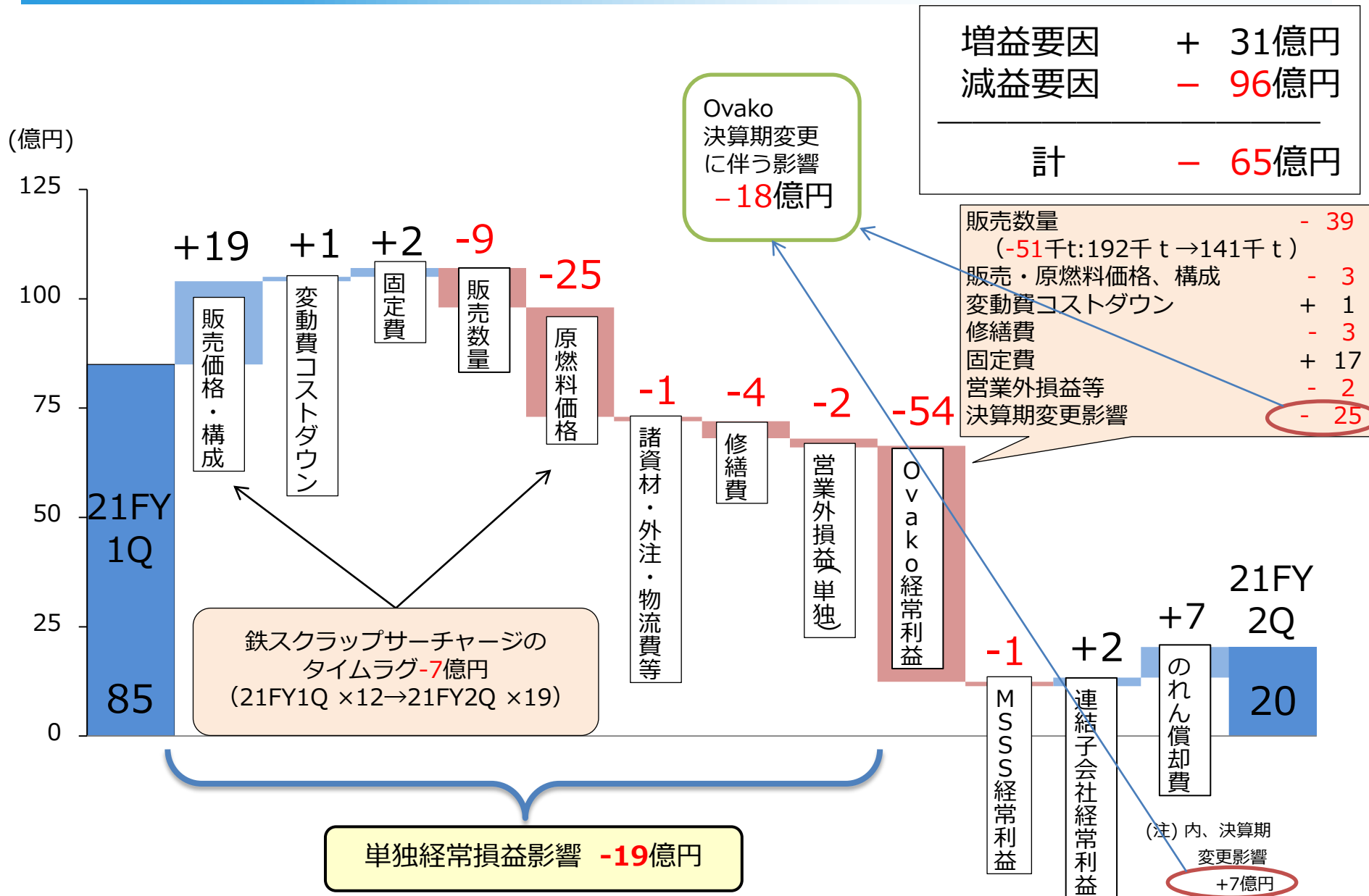
単独：21FY1Qは需要回復により数量回復。2Qは夏季修繕影響で減
 Ovako：21FY1Q(1-6月)は需要回復および決算期変更により数量が増加。2Qは夏季修繕により数量減少。
 MSSS：21FY2Q(4-6月)はインドでの酸素供給停止により数量減少



経常利益の変化要因 (2020FY上期→2021FY上期)



経常利益の変化要因 (2021FY1Q→2021FY2Q)



セグメント別損益

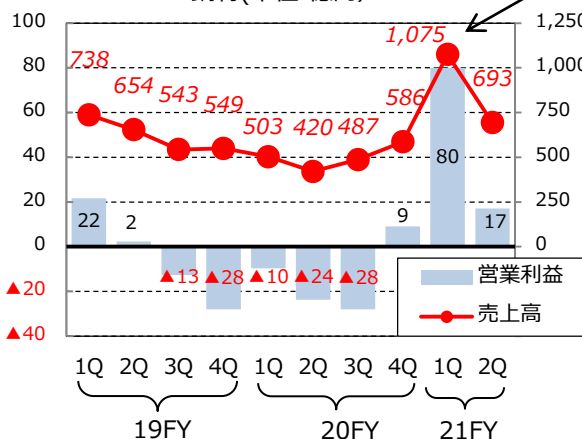
(単位：億円、%)

	2021FY上期(A)			2020FY上期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,767	98	5.5	923	▲33	-3.6	+844	+131	+9.1
粉末	22	4	17.4	16	1	3.7	+6	+3	+13.7
素形材	89	2	2.3	59	▲7	-11.0	+30	+9	+13.3
小計	1,878	104	5.5	998	▲39	-3.9	+880	+143	+9.4
その他	5	▲0	-0.0	7	0	2.8	-2	-0	-2.8
調整額	▲50	0	—	▲34	0	—	-16	+0	—
連結計	1,833	104	5.7	972	▲39	-4.0	+861	+143	+9.7

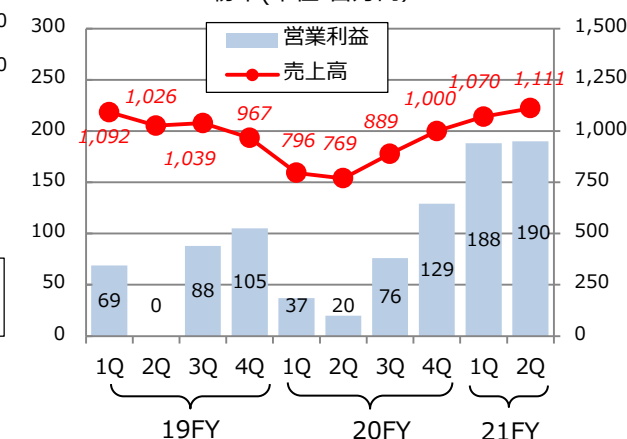
事業別損益推移

鋼材セグメントには
Ovako決算期変更影響を含む

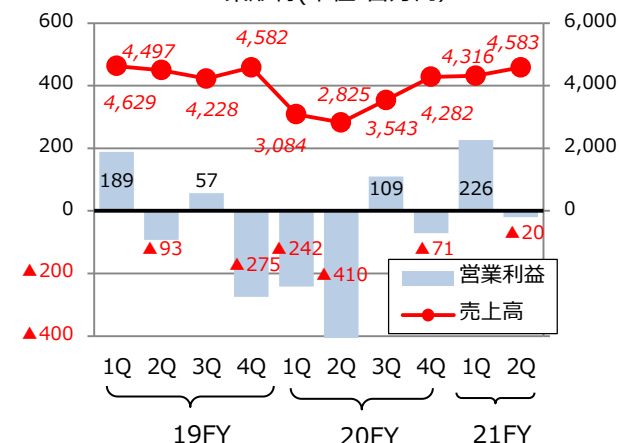
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



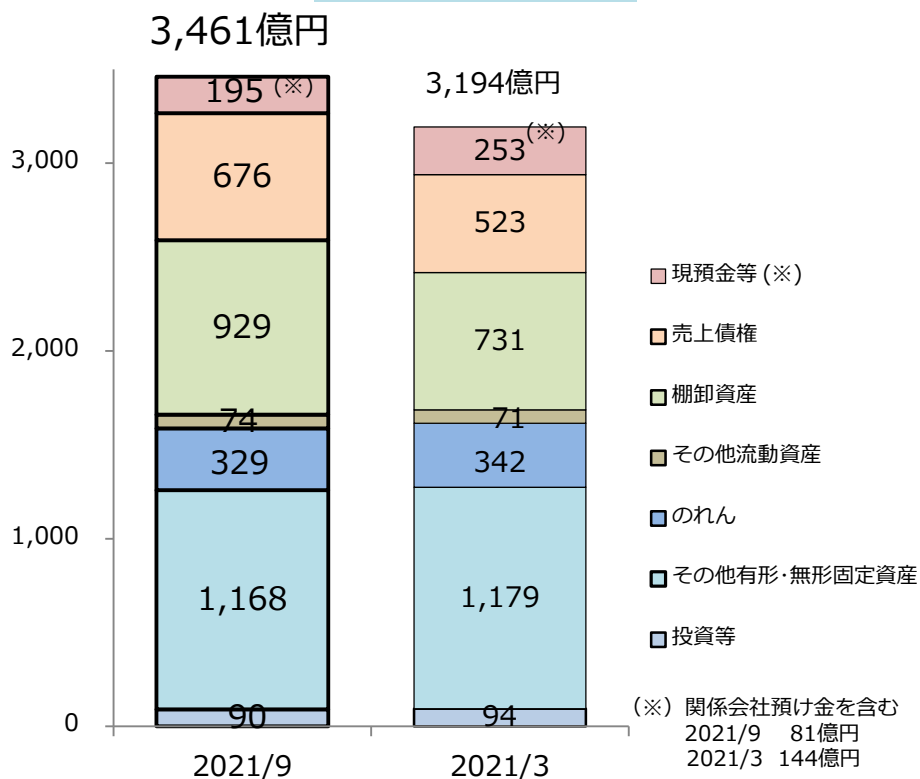
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

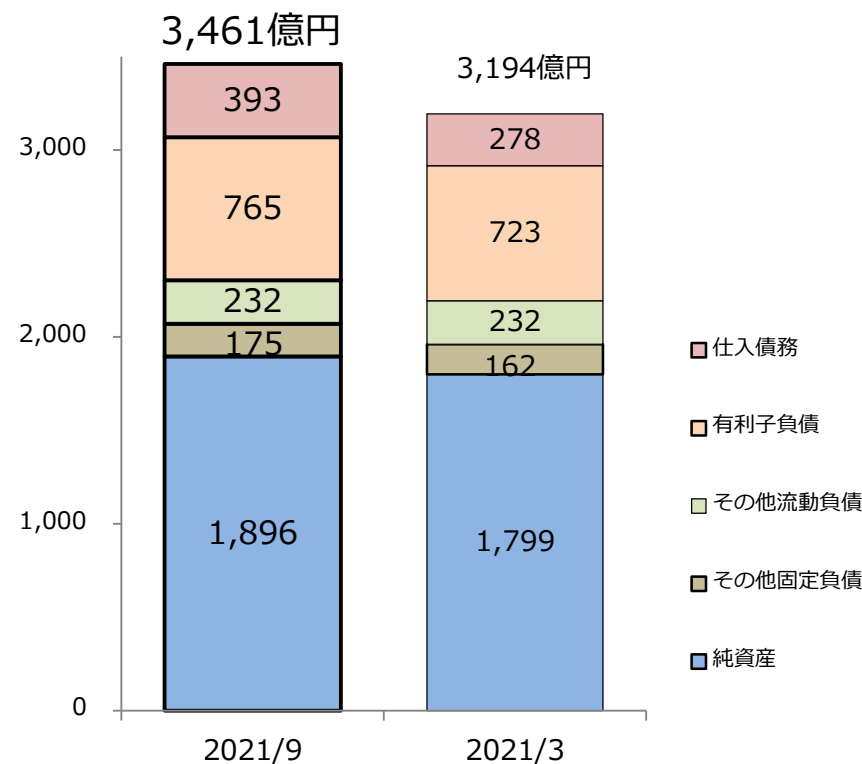
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +268億円 (+8%)

現金等	- 59億円	： 運転資金増加にともない現金等減少
売上債権	+152億円	： 売上数量増加に伴う売上債権増加
棚卸資産	+198億円	： 売上増加、原燃料価格上昇に伴う在庫増加
のれん	- 12億円	： 償却 -20億円、為替影響 +8億円

負債・純資産の主な増減 +268億円 (+8%)

仕入債務	+115億円	： 原燃料価格上昇、売上増加に伴う仕入増
有利子負債	+ 42億円	： 運転資金増加にともない有利子負債増加
純資産	+ 97億円	： 利益剰余金 +73億円、 その他の包括利益累計額 +22億円

(参考)主要各社の総資産額(2021/9末:連結消去前)

当社 2,564億円 Ovako 1,040億円 MSSS 98億円

自己資本比率

2021/9末 54.3%

2021/3末 55.9%

キャッシュ・フロー計算書

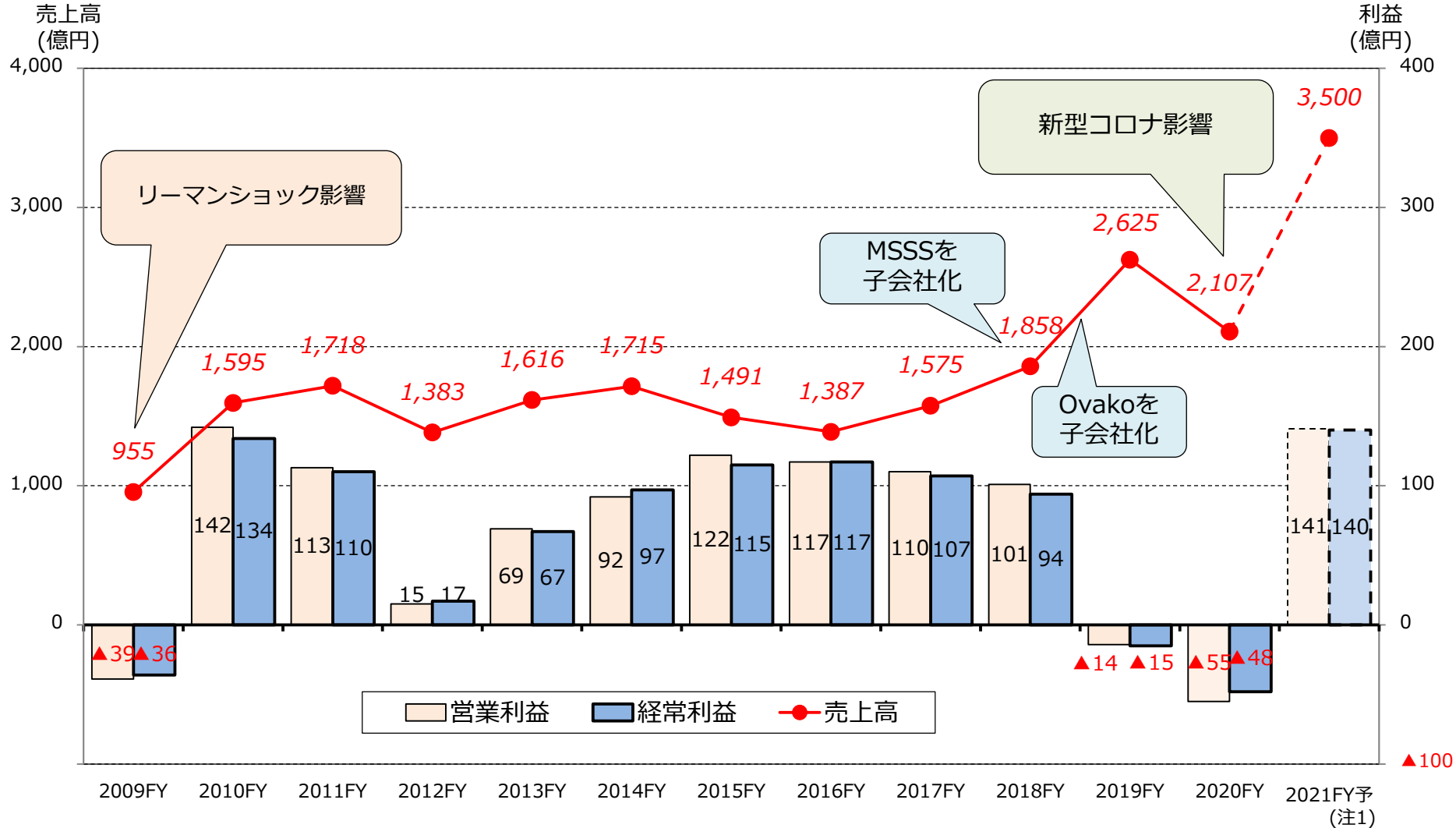
2Q決算

(億円)

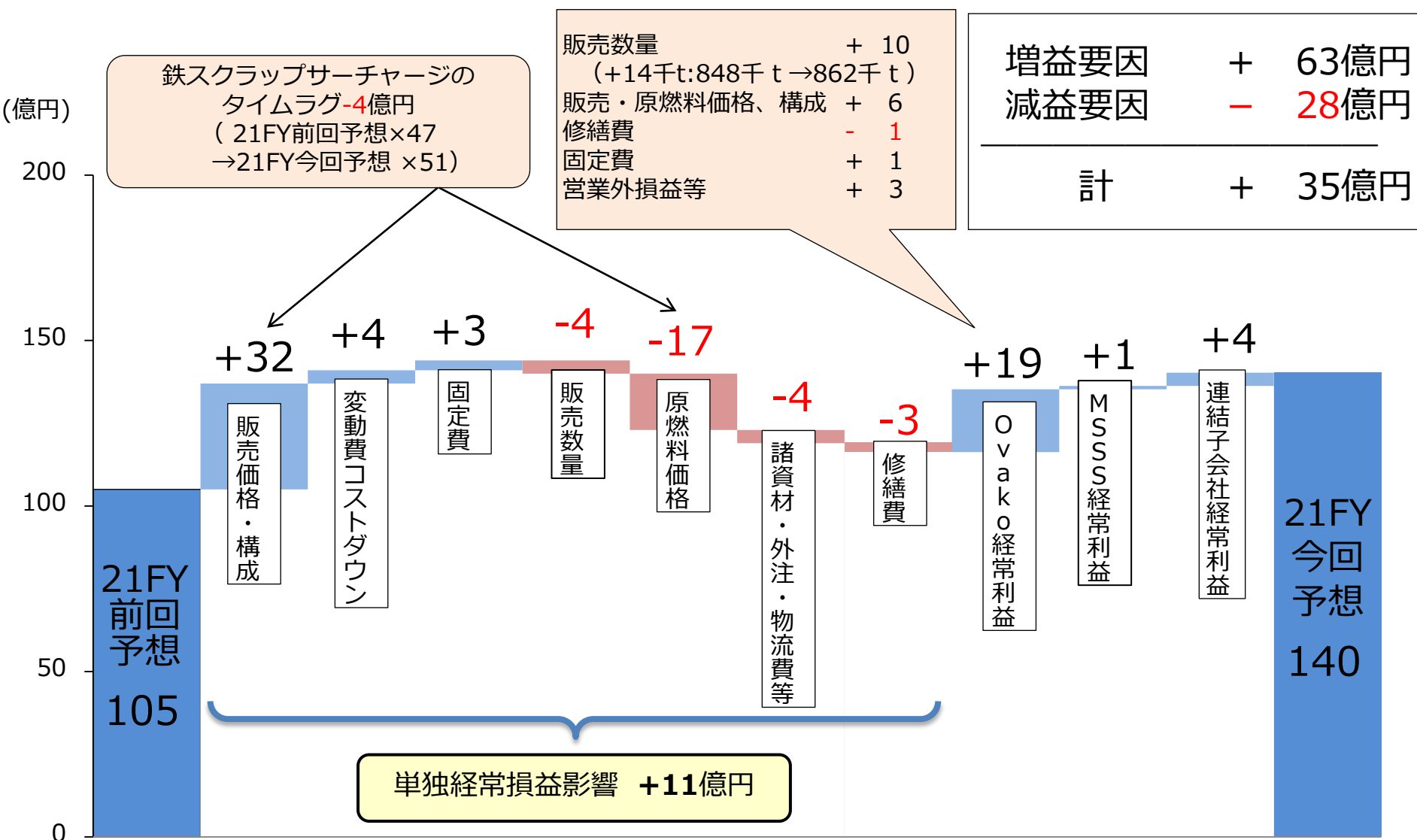
	2019FY上期	2019FY下期	2020FY上期	2020FY下期	2021FY上期
営業活動によるC/F (A)	164	231	171	52	2
税金等調整前当期純利益	21	△54	△41	△54	105
減価償却費・のれん償却額	109 { 88	51 { 105	40 { 81	72 { 126	213 { 108
法人税等の支払または還付	△19	△23	13	△0	△3
運転資金等	74	203	118	△20	△207
EBITDA (簡便計算)					
投資活動によるC/F (B)	△10	△114	△141	△53	△87
設備支出	△66	△117	△139	△50	△87
株式売却収入	11	10	-	3	6
その他	44	△8	△2	△6	△6
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	153	116	30	△1	△85
財務活動によるC/F (C)	△172	△39	18	△73	22
借入金・社債・CP・リース債務の増減	△128	△35	18	△73	22
自己株式の取得または売却等	△30	5	△0	△0	△0
配当金の支払	△14	△9	△0	△0	△0
その他	△0	△0	△0	△0	△0
換算差額 (D)	△6	2	△4	6	3
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△24	79	44	△68	△60

(注)キャッシュには関係会社預け金含む

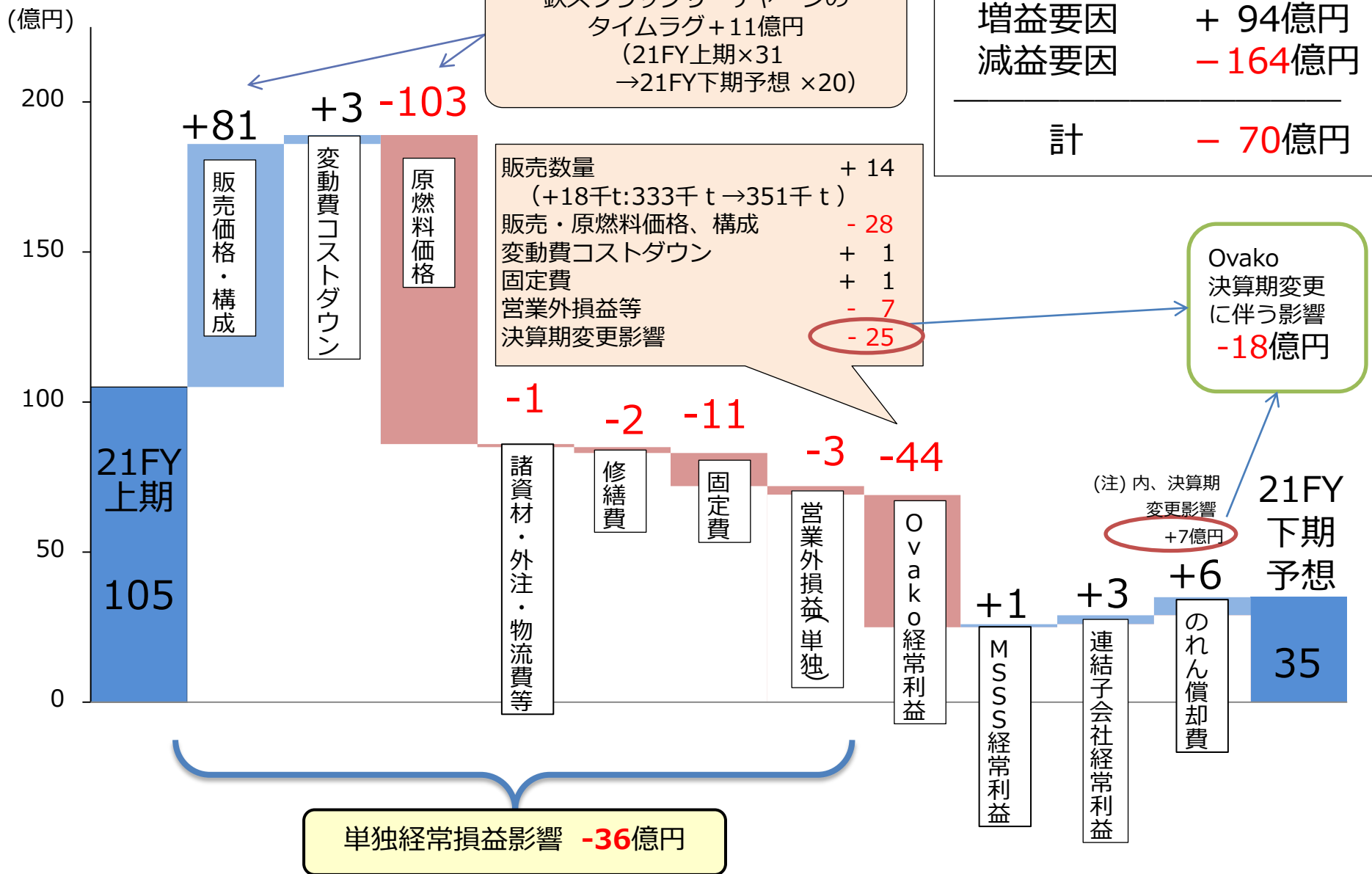
業績推移(年度)



経常利益の変化要因 (2021FY前回予想→2021FY今回予想)



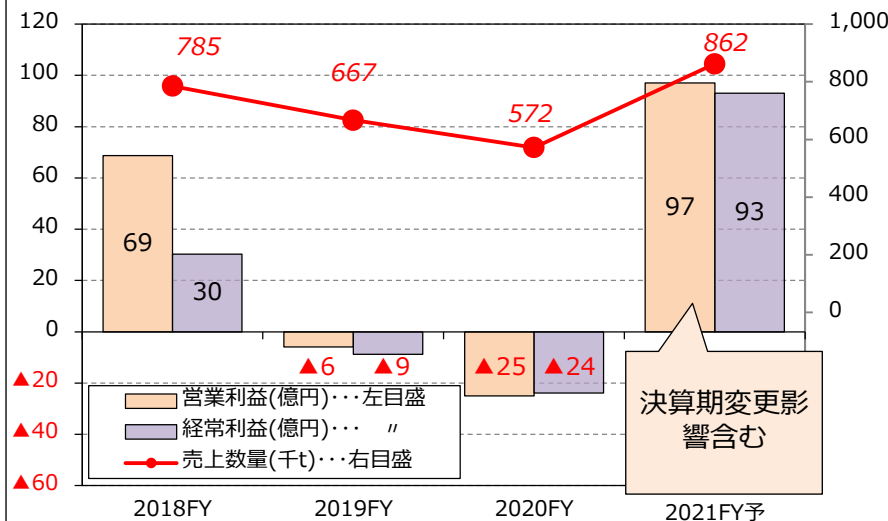
経常利益の変化要因 (2021FY上期→2021FY下期今回予想)



2021年度の見通し

- ・ **上期：経常利益68億円 (前回予想比+12億円)**
下期：経常利益24億円 (前回予想比+ 6億円)
- ・ 需要回復による販売数量増加、マージン改善、収益改善効果等により、前回通期予想比増益見込み
- ・ 夏季長期修繕のある7-9月での営業利益黒字化は2011年以来。7-9月での経常利益黒字化は初めて。
- ・ 引き続き、固定費および変動費削減に取り組むとともに、旺盛な需要を捕捉し、計画の達成を目指す。
- ・ 2021年度から決算期を12月から3月へ変更 (P38ご参照)

営業利益、経常利益、売上数量推移



収益力の強化、サポート体制

・ 収益力の強化

- ▶ ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ▶ 変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ▶ サーチャージでオフセット出来ない原燃料価格の上昇を2022年1月以降の製品価格に反映し、マージン改善を図る

・ 3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進 ② 操業支援によるコスト削減 ③ 調達コストの削減

MSSS業績

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
 本社インドムンバイ。特殊鋼一貫製造・販売子会社。2018年6月子会社化。

2021年度の見通し

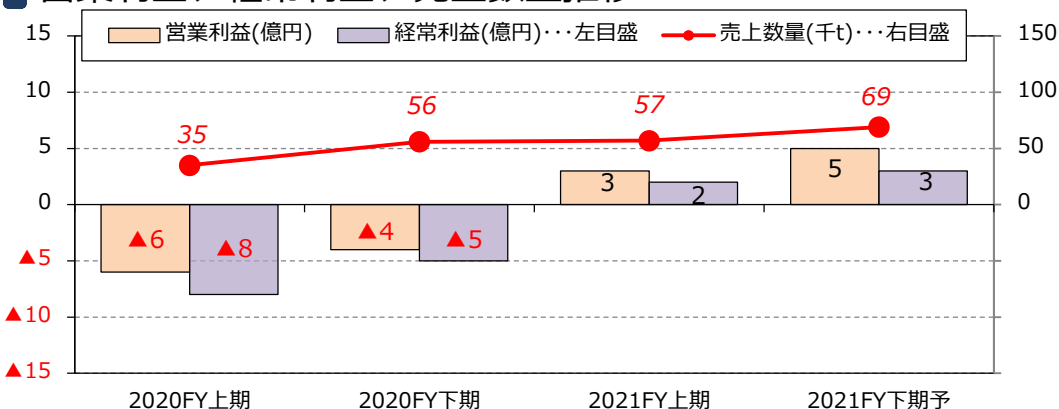
- ・ MSSSの販売数量は2020FY2Q(4-6月)を底にコロナから回復していたが、2021年4月、コロナ感染再拡大に伴い酸素供給が停止、生産に影響
- ・ 2021年6月から酸素供給が再開され、7月から通常操業
- ・ 一時帰国していた日本人派遣者は、現地の感染状況が落ち着いてきたため2021年8月下旬に帰任

- ・ **上期：経常利益2億円（前回予想比±0億円）**
- ・ **下期：経常利益3億円（前回予想比+2億円）**
- ・ 2Q(4-6月)は酸素供給停止影響で販売数量が減少したが、販売価格・構成改善等により上期は黒字を確保
- ・ 下期(7-12月)は、7月の豪雨影響は残るものの、販売価格・構成の改善で増益を図る
- ・ コスト競争力・営業力の強化により、拡大・高度化するインド市場でのポジションを高め、2021年度黒字化をめざす。

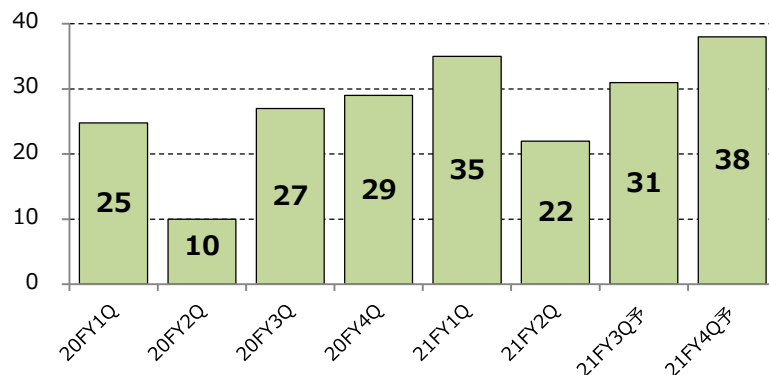
収益確保に向けた取り組み

- ・ **営業基盤・営業体制の強化**
 高洗浄度技術を生かした
 営業戦略策定、拡販、
 販売構成の高度化、
 販売価格の改善
- ・ **変動費の削減**
 エネルギー原単位改善や
 安価原料の有効活用による
 操業コスト・調達コストの削減
- ・ **固定費の削減**
 要員適正化を含む
 労務コストの削減

営業利益、経常利益、売上数量推移

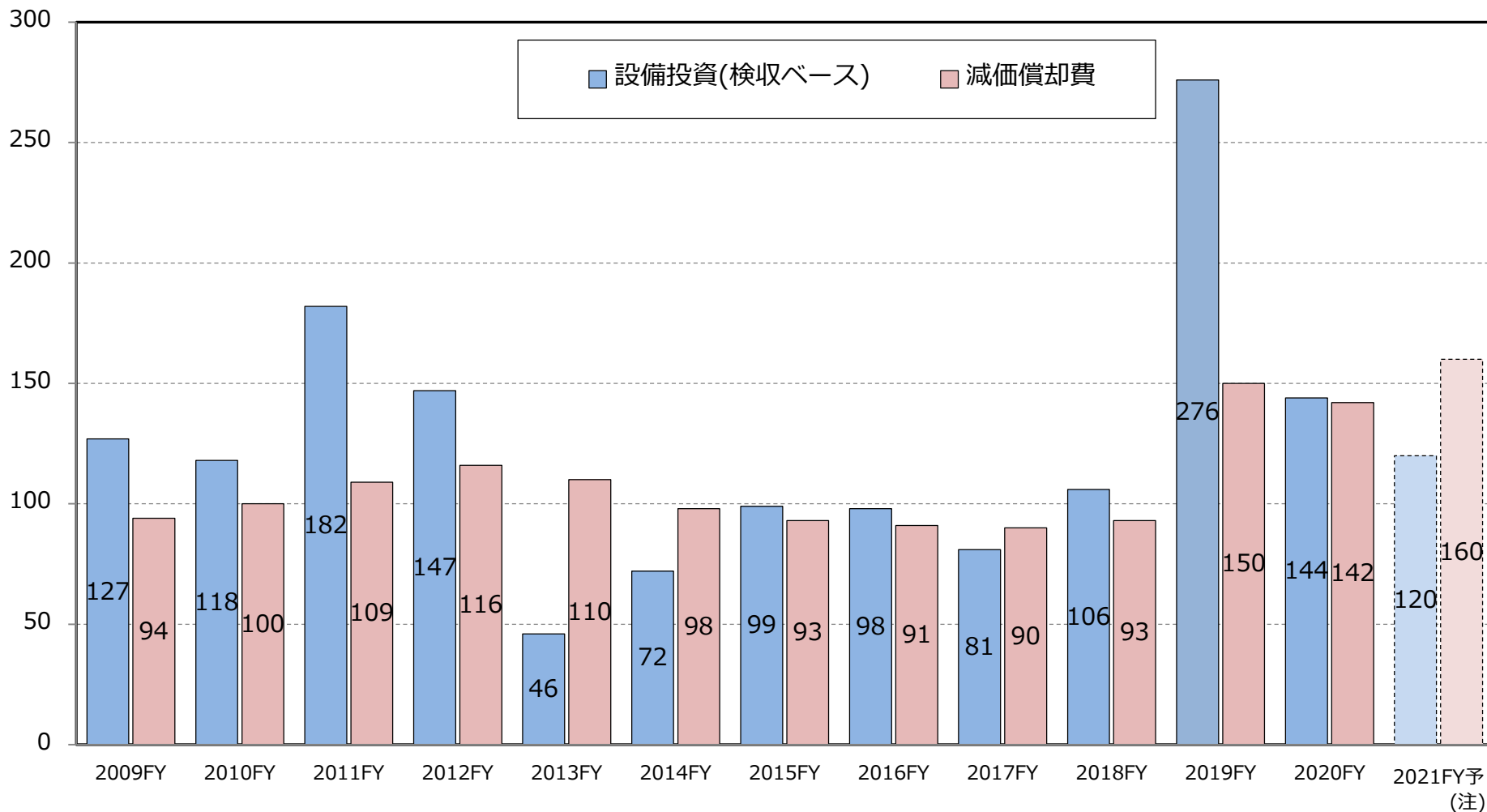


MSSS売上数量(千t)



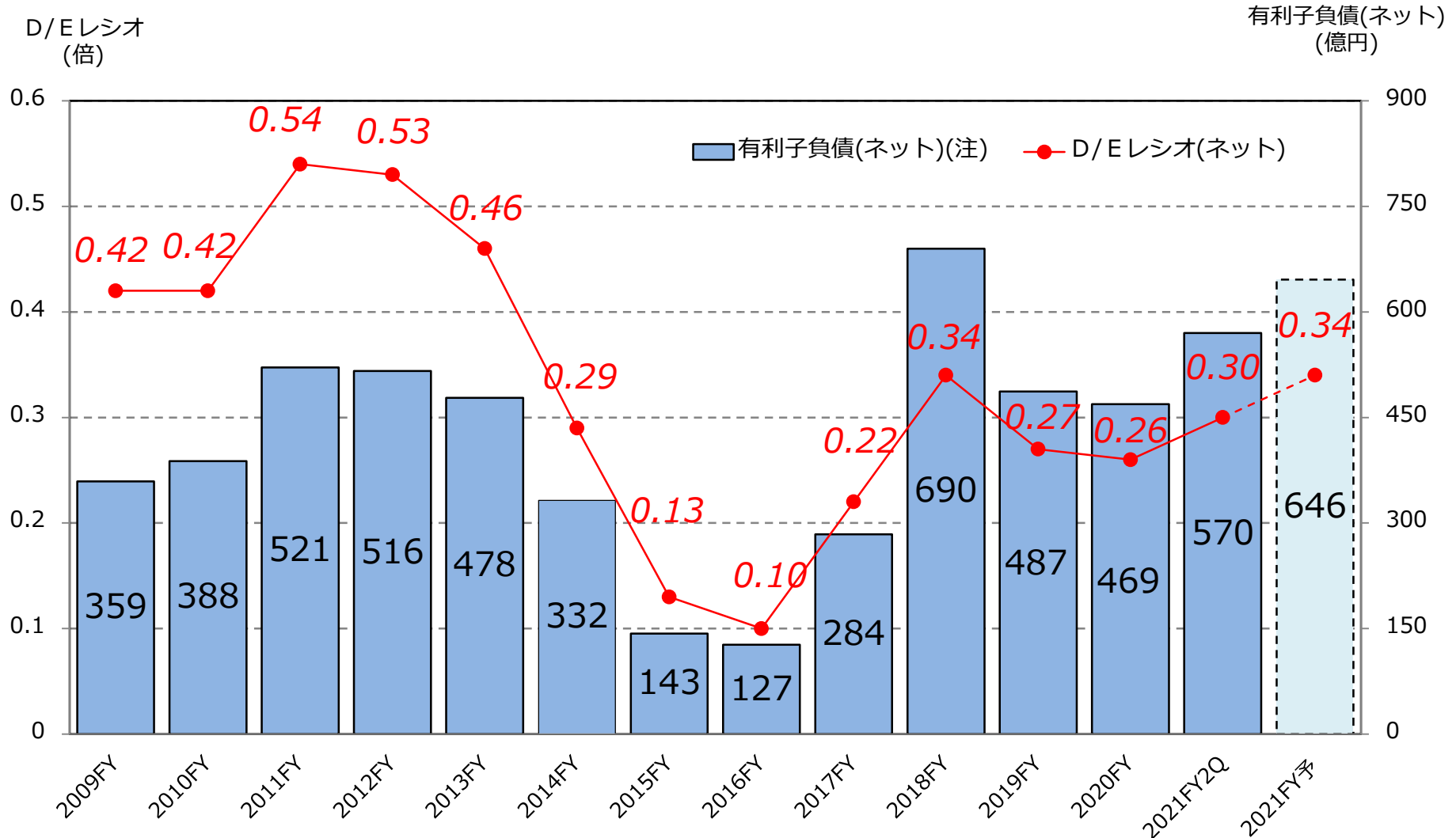
設備投資・減価償却費の推移

(億円)



(注)2021FY予想の設備投資(検収ベース)120億円の内、当社単独50億円、Ovako 59億円、MSSS 7億円。
2021FY予想の減価償却費160億円の内、当社単独 80億円、Ovako 72億円、MSSS 0億円。

D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

5. トピックス

トピックス

ESG

(1) 「健康経営宣言」を策定 (2021年8月18日)

- 一人ひとりが毎日充実して働ける職場環境づくりに、継続して取り組むことを宣言
- 社長を最高健康責任者とする健康経営推進体制を整備
- 健康保険組合と一体となって取り組みを推進



その他

(2) 「関西次世代3Dプリンタ展」への出展 (2021年10月6日～8日)

インテックス大阪で開催された
「第3回関西次世代3Dプリンタ展」に出展
【当社出展製品例】

- 3Dプリンター用銅合金粉末
- Coフリーマルエージング鋼粉末
- 金属磁性粉末(電磁波吸収体用扁平粉末等)
- 高機能ガスアトマイズ金属粉末

等



6. 參考資料

Ovakoの決算期変更について


(1) 変更内容

2021年度より、Ovakoの決算期を12月から当社単独と同じ3月へ変更。
移行期となる2021年度は、2021年1月～2022年3月の15か月決算を実施。

(2) 当社連結決算への影響

当社連結決算上、Ovakoの2021年1～3月損益が、「**Ovakoの決算期変更影響**」となる。
連結経常利益への影響は、**+18億円**(Ovako経常利益 25億円、のれん償却費 -7億円)。

2020年度				2021年度				
2020年1-12月				2021年1月-2022年3月				
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
20/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22/1-3月



決算期変更影響

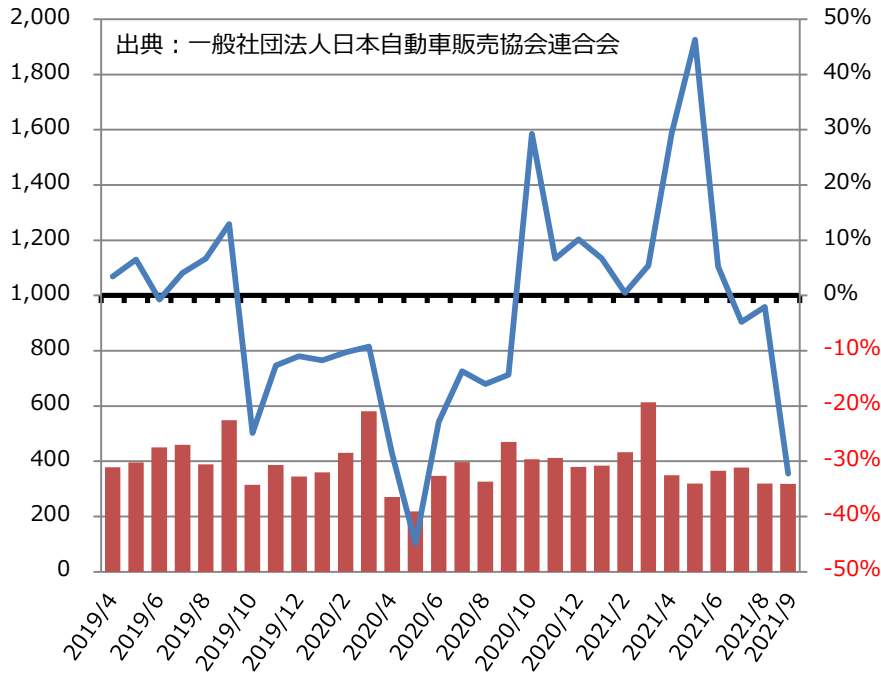
(3) 変更の理由

Ovakoは、他の海外子会社と同様、3か月遅れで連結決算に取り込んでいた。同社は当社単独の次に大規模な子会社(売上高は当社単独の約8割)であり、連結業績に占める割合が高い。同社の決算期を当社単独と統一することにより、適時・適切な業績開示とグループ経営管理を実施する。

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)

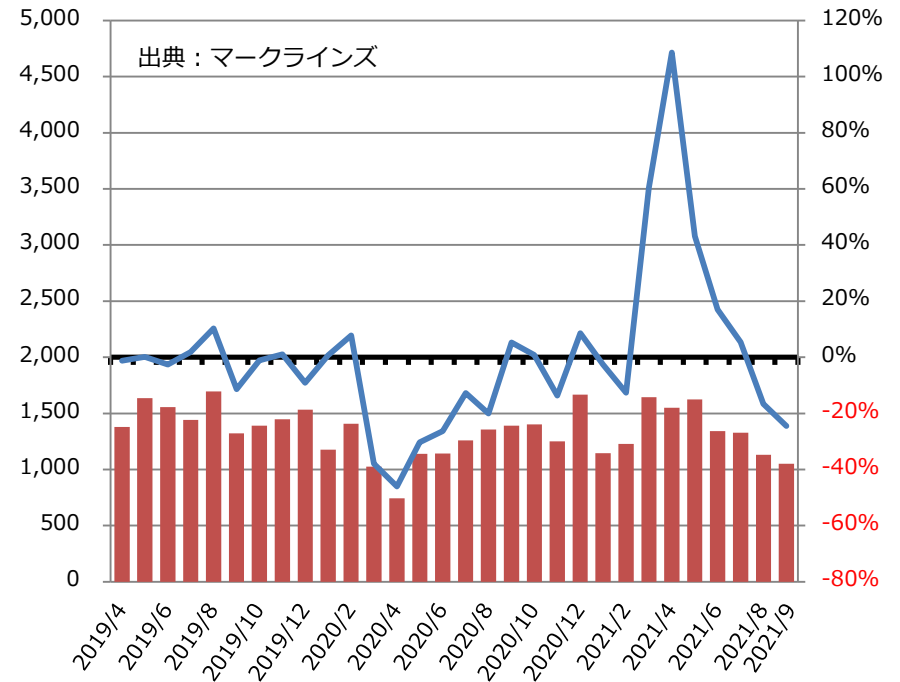
(台数:千台)



- ・ 2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5 : 前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -32.2%

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数:千台)

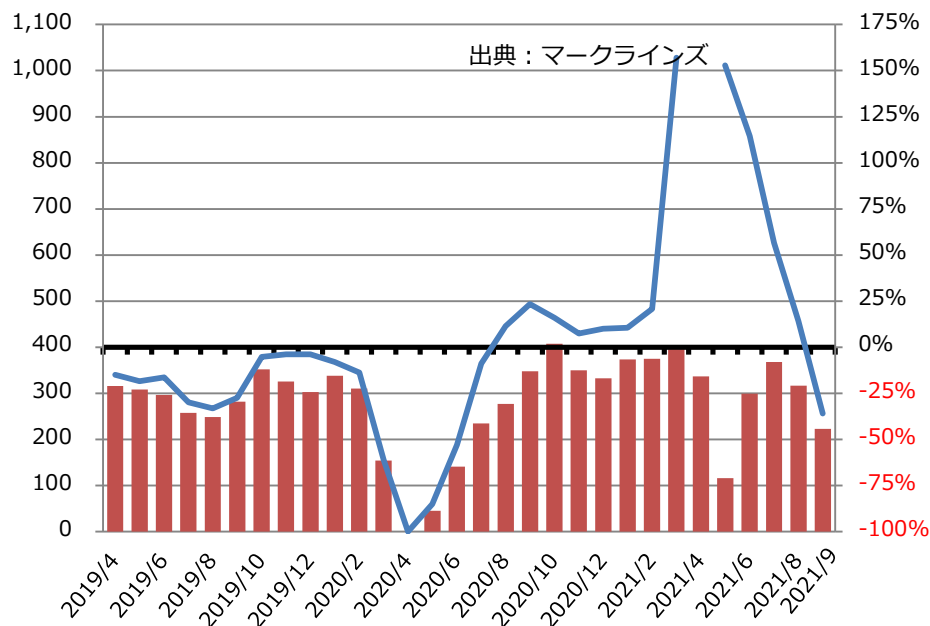


- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -24.5%

自動車市場の動向

インド自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数:千台)

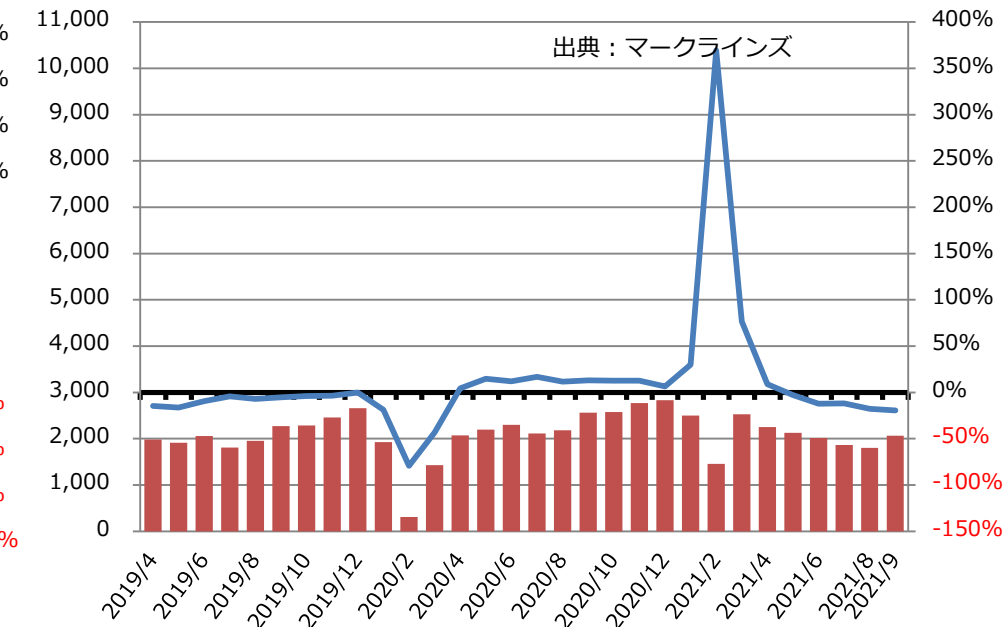


- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5 : 新型コロナウイルス影響再拡大により一時的に落込み
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -35.9%

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

(台数:千台)

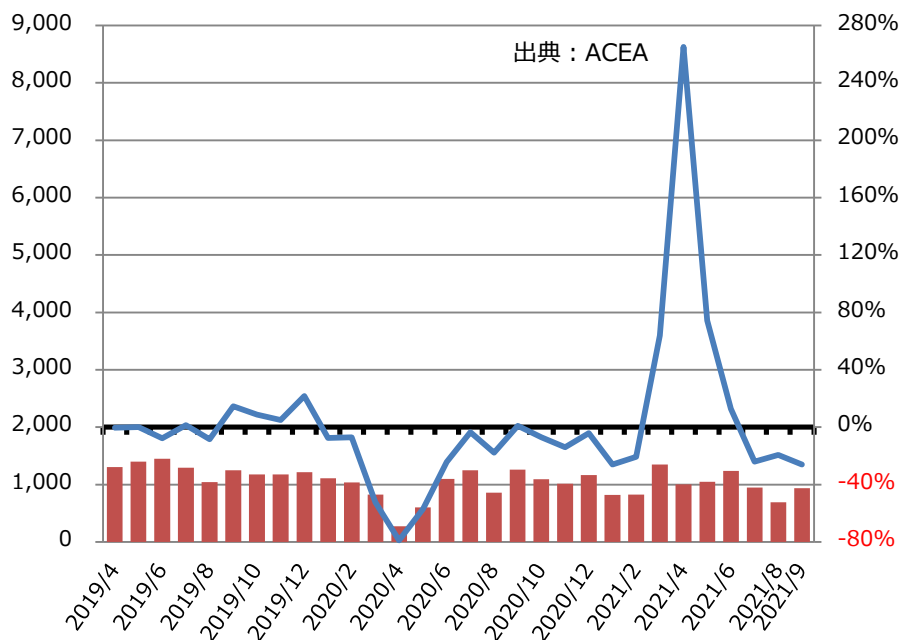


- ・ 2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/6 : 世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で
前年同月比 -12.4%
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -19.4%

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

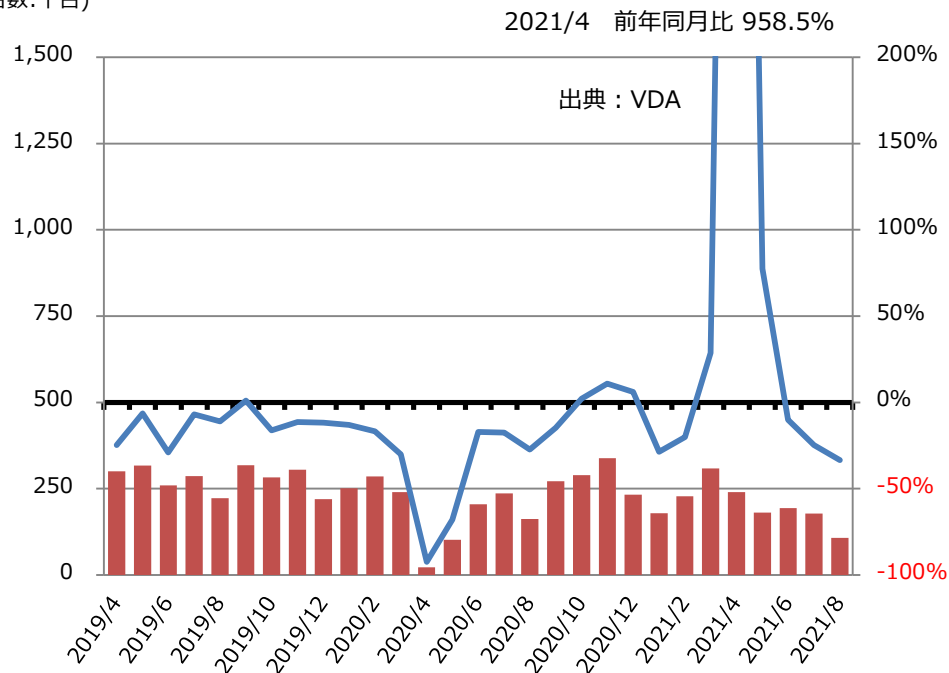
(台数:千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2021/9 : 前年同月比 -26.0%

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

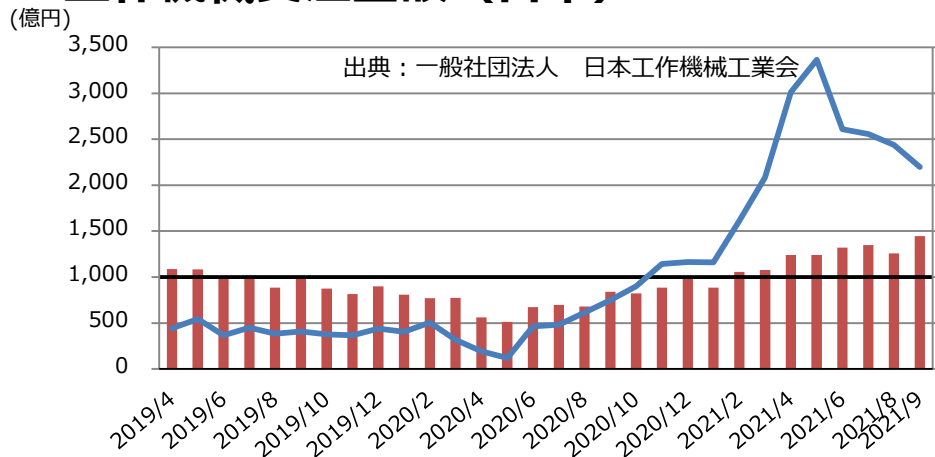
(台数:千台)



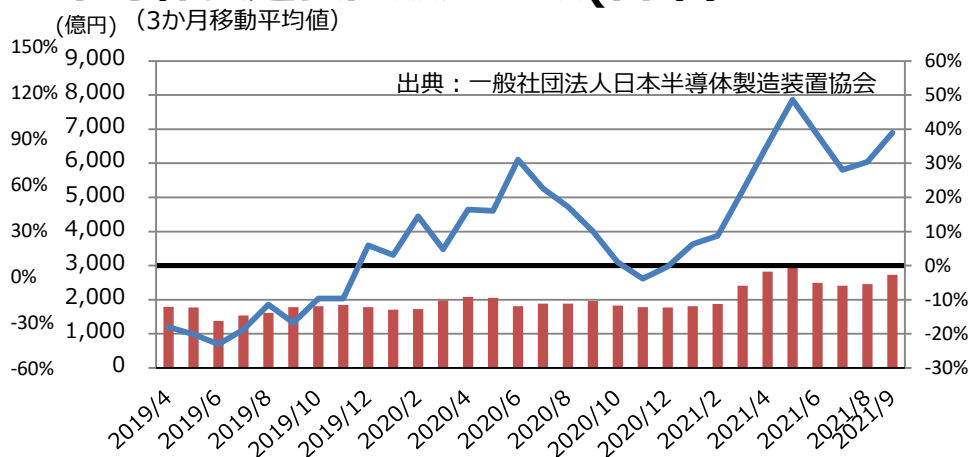
- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2021/8 : 前年同月比 -33.4%

産業機械・建設機械市場の動向

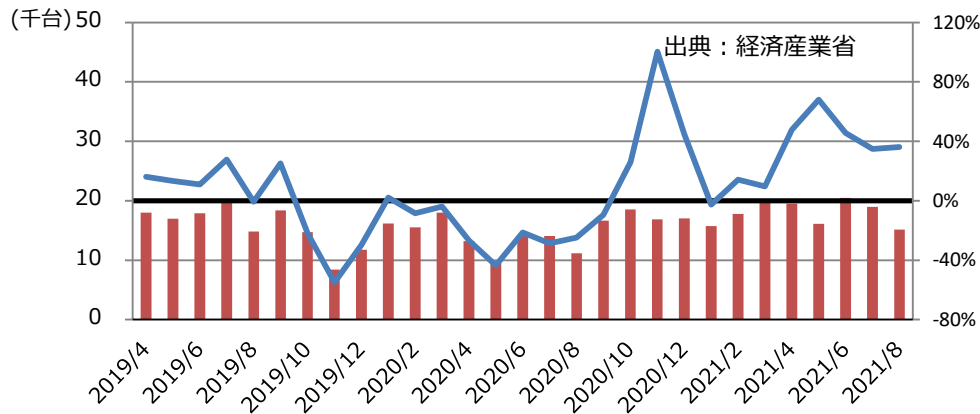
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



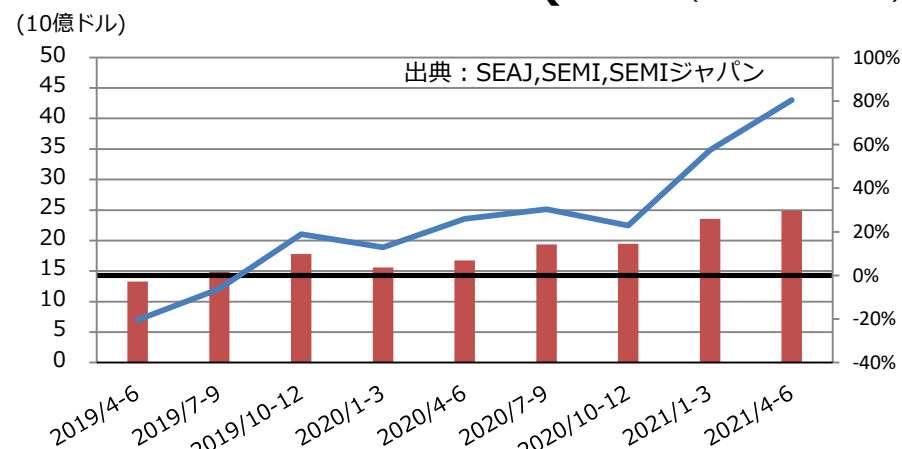
半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



ショベル系建設機械国内生産台数（前年同月比増減率）



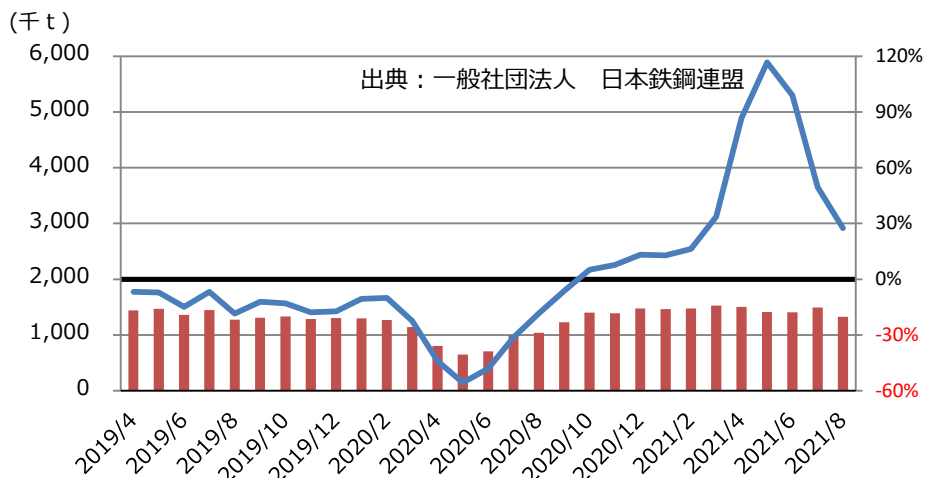
半導体製造装置販売金額(世界)（前年同期比増減率）



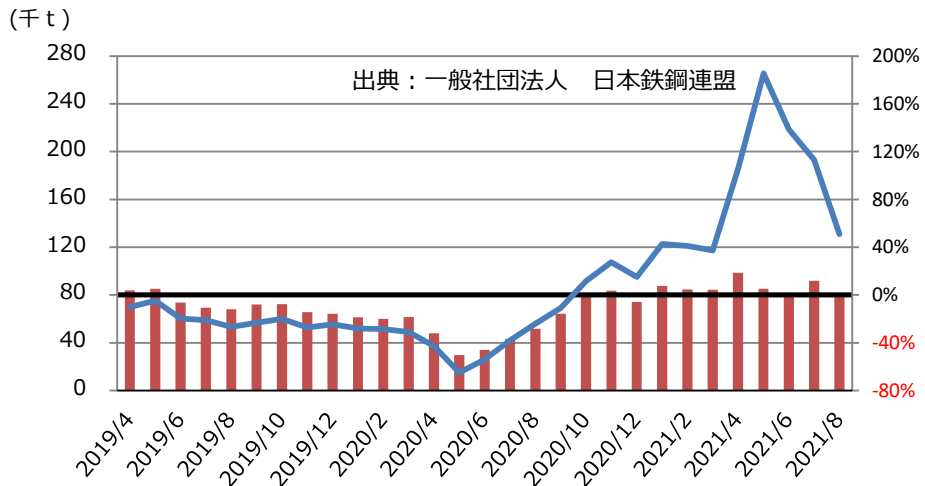
工作機械 : 新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+71.9%。
半導体製造装置 : 2020年7月以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向。
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復。
 2021/9は前年同月比+39.0%。
建設機械 : 2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移。
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス。足元では+36.1%。

特殊鋼需要の動向

日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）（前年同月比増減率）



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）（前年同月比増減率）



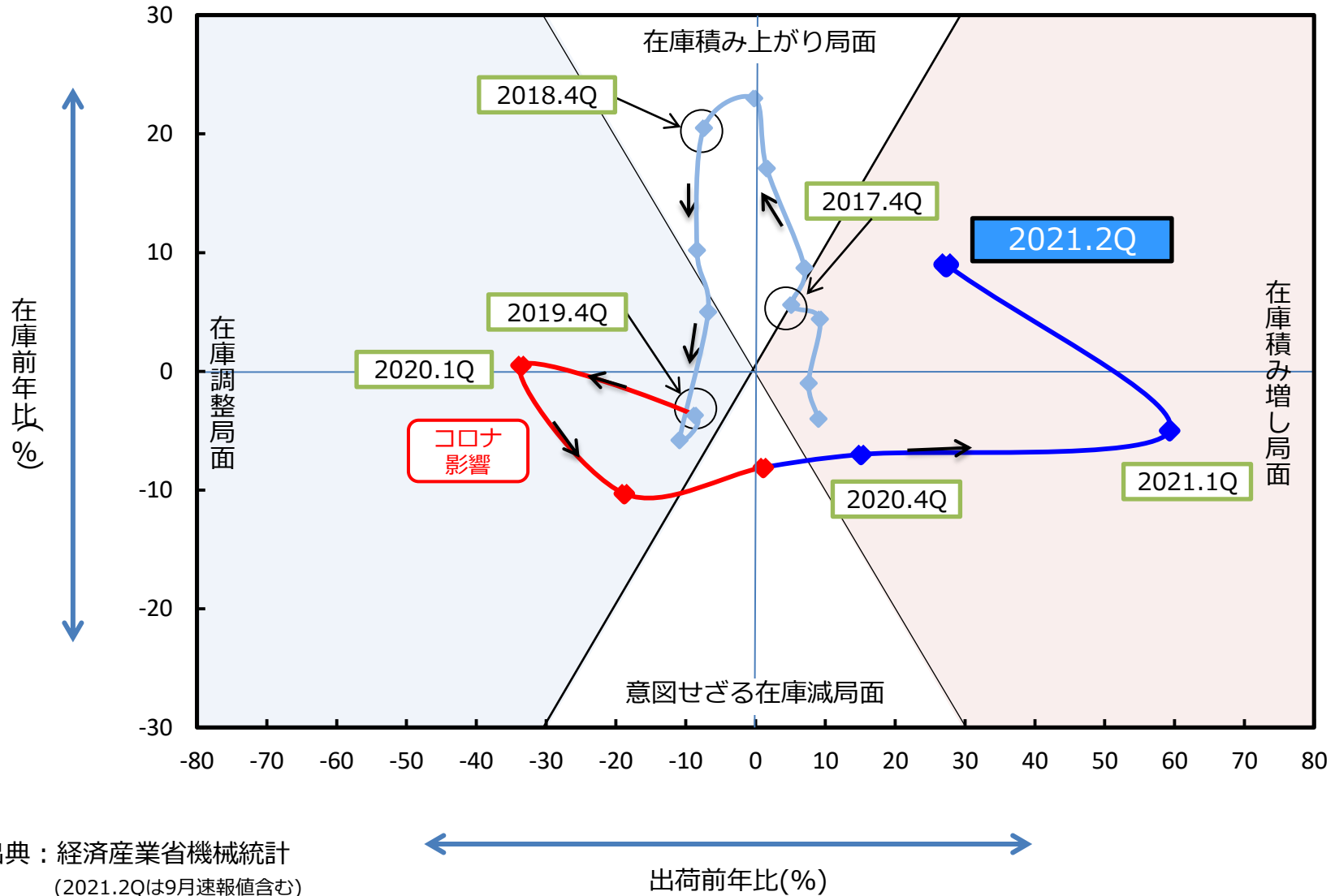
軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復し、2021/8は前年同月比+51.1%。

欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼（前年同期比増減率）



2020年4月に底打ちし、以降回復傾向。
2021年4月は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101%。
2021年6月は前年同期比で+27.3%。

軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計
(2021.2Qは9月速報値含む)

損益の詳細 (業績予想 2021/10/29公表) 対前回予想

(単位: 千t、億円、円/株、%)

	21FY上期 実績(A)	21FY下期 予想(B)	2021FY予想 (C) = (A)+(B)	21FY上期 前回予想(D)	21FY下期 前回予想(E)	2021FY 前回予想(F)	増減 (C)-(F)
売上数量	1,079	930	2,009	1,087	926	2,013	-4
内、当社単独	511	510	1,021	522	510	1,032	-11
内、Ovako(注1)	511	351	862	508	340	848	+14
内、MSSS(注2)	57	69	126	57	76	132	-6
売上高	1,833	1,667	3,500	1,820	1,630	3,450	+50
内、当社単独	796	895	1,690	805	863	1,668	+22
内、Ovako	930	606	1,536	891	597	1,488	+48
内、MSSS	77	101	178	77	105	182	-4
営業利益	104	37	141	87	22	109	+32
内、当社単独	48	15	63	41	12	53	+10
内、Ovako	70	27	97	60	20	80	+17
内、MSSS	3	5	8	3	3	6	+2
内、のれん償却費(注1)	▲20	▲14	▲34	▲20	▲13	▲33	-1
経常利益	105	35	140	85	20	105	+35
内、当社単独	52	16	68	44	13	57	+11
内、Ovako	68	24	93	56	18	74	+19
内、MSSS	2	3	4	2	1	3	+1
内、のれん償却費	▲20	▲14	▲34	▲20	▲13	▲33	-1
税後利益(注3)	73	18	91	61	10	71	+20
1株当たり税後利益	133.8		167.0	112.0		130.3	+36.7
のれん償却費を除く営業利益	124	51	175	107	35	142	+33
のれん償却費を除く経常利益	125	49	174	105	33	138	+36
のれん償却費を除く税後利益	93	32	125	81	23	104	+21
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	170.8		229.4	148.7		190.9	+38.5

(注1) Ovakoおよびのれん償却費:

2021年1月~2022年3月の15か月の数値(上期は1月~9月の9ヵ月、下期予想は10月~2022年3月の6か月の数値)

(注2) MSSS: 1月~12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

損益の詳細 (業績予想 2021/10/29公表) 対前年度

(単位: 千t、億円、円/株、%)

	21FY上期 実績(A)	21FY下期 予想(B)	2021FY予想 (C)=(A)+(B)	20FY上期 (D)	20FY下期 (E)	2020FY (F)=(D)+(E)	増減 (C)-(F)
売上数量	1,079	930	2,009	627	740	1,367	+642
内、当社単独	511	510	1,021	273	432	704	+317
内、Ovako(注1)	511	351	862	320	252	572	+290
内、MSSS(注2)	57	69	126	35	56	91	+35
売上高	1,833	1,667	3,500	972	1,136	2,107	+1,393
内、当社単独	796	895	1,690	428	609	1,036	+654
内、Ovako	930	606	1,536	469	427	897	+639
内、MSSS	77	101	178	41	62	103	+75
営業利益	104	37	141	▲39	▲16	▲55	+196
内、当社単独	48	15	63	▲20	37	17	+46
内、Ovako	70	27	97	6	▲31	▲25	+122
内、MSSS	3	5	8	▲6	▲4	▲10	+18
内、のれん償却費(注1)	▲20	▲14	▲34	▲12	▲14	▲26	-8
経常利益	105	35	140	▲40	▲8	▲48	+188
内、当社単独	52	16	68	▲17	39	22	+46
内、Ovako	68	24	93	4	▲28	▲24	+117
内、MSSS	2	3	4	▲8	▲5	▲13	+17
内、のれん償却費	▲20	▲14	▲34	▲12	▲14	▲26	-8
税後利益(注3)	73	18	91	▲33	▲36	▲69	+160
1株当たり税後利益	133.8		167.0	▲60.8		▲126.1	+293.1
のれん償却費を除く営業利益	124	51	175	▲26	▲2	▲29	+204
のれん償却費を除く経常利益	125	49	174	▲27	6	▲21	+195
のれん償却費を除く税後利益	93	32	125	▲21	▲22	▲42	+167
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	170.8		229.4	▲37.9		▲78.0	+307.4

(注1) Ovakoおよびのれん償却費:

2021FY予想は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値(2021FY上期実績は1月～9月の9ヵ月、2021FY下期予想は10月～2022年3月の6カ月の数値)

2020FYは2020年1月～12月の12カ月の数値

(注2) MSSS: 1月～12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)